

## 台湾国立政治大学との大学間交流協定調印式を開催

お知らせ

- ・「北海道大学の役職員の給与等の水準（平成25年度）」の概要について
- ・被扶養者の要件の確認
- ・夏季期間における工学系建物の閉鎖の実施について



## 1 「北海道大学創基150年に向けた 近未来戦略」について

### ■ 全学ニュース

- 2 台湾 国立政治大学との大学間交流協定調印式を開催
- 2 第15回北大・九大合同フロンティア・セミナーを開催
- 3 平成26年度北海道大学レーン記念賞授与式を挙げる
- 4 平成26年度科学技術分野の文部科学大臣表彰  
～科学技術賞(研究部門)に理学研究院 見延庄士郎教授
- 5 第24回北海道大学教育ワークショップ(FD)を開催
- 6 北大キャンドルナイト2014を開催
- 7 構内の伐採木・剪定枝を配布
- 7 サステイナブル・キャンパス・コンテスト最優秀賞  
「ウッドデッキ再生プロジェクト」の完了
- 8 第8回「食と健康」研究会を開催
- 9 第1回フード&メディカルイノベーション推進本部運営委員会を開催
- 10 北大フロンティア基金
- 12 平成25年度北海道大学外国人留学生後援会の決算

### ■ 部局ニュース

- 13 「フロンティア応用科学研究棟」落成式、落成記念式典、落成記念講演会、落成記念祝賀会を開催
- 14 医学研究科附属動物実験施設完成披露・祝賀会を挙げる
- 15 農学研究院・農学院・農学部が農林水産分野において北海道農政部・水産林務部と連携推進に関する覚書を締結
- 15 公共政策学連携研究部及び教育部が株式会社北海道新聞社と連携協定を締結
- 16 水産科学研究院が「食とバイオ国際交流シンポジウム2014」を開催
- 17 総長みずから数理連携による大学院教育の推進を宣言物質科学の博士課程教育リーディングプログラム特別講演会を開催
- 18 会計専門職大学院で開設10周年記念セミナーを一般社団法人日本内部監査協会と共同開催



台湾 国立政治大学との大学間交流協定調印式



北大キャンドルナイト2014

- 19 会計専門職大学院において公認会計士・監査審査会会長による特別セミナーを開催
- 19 会計専門職大学院で公認会計士制度説明会を開催
- 20 経済学部で成績優秀者表彰式を挙げる
- 21 環境科学院で北大祭・研究施設公開「知ってなるほど環境科学」を開催
- 22 5研究所・センター合同で一般公開を開催
- 25 メディア・コミュニケーション研究院公開講座「近代とその行方：アートとグローバル化とリスク」が終了
- 26 環境健康科学研究教育センターで「子どもの健康と発達」に与える社会経済要因の影響に関するセミナーを開催
- 27 薬学部でメンタルヘルス講習会を実施
- 27 薬学部で第17回生涯教育特別講座を開催
- 28 工学研究院で工学系大学院FD研修を開催
- 29 工学系部局で「第1回心のケアに関する講習会」を開催
- 30 附属図書館で2014年 日・EUフレンドシップウィークイベント「Visit Sweden!」を開催

### ■ お知らせ

- 32 「北海道大学の役職員の給与等の水準(平成25年度)」の概要について
- 33 被扶養者の要件の確認
- 33 夏季期間における工学系建物の閉鎖の実施について

### ■ 博士学位記授与 34

### ■ レクリエーション 36

### ■ 諸会議の開催状況 39

### ■ 学内規程 40

### ■ 表敬訪問 41

### ■ 人事 42

- 44 新任教授紹介



フロンティア応用科学研究棟落成記念祝賀会



5研究所・センター合同一般公開体験学習コーナー



附属図書館 日・EUフレンドシップウィークイベント「Visit Sweden!」



医学研究科附属動物実験施設

表紙：フロンティア応用科学研究棟（関連記事13頁に掲載）

裏表紙：北の鉄道風景<sup>®</sup> 711系電車

## 「北海道大学創基150年に向けた 近未来戦略」について

理事・副学長 やすだ かずのり  
安田 和則



3月の教育研究評議会において「北海道大学創基150年に向けた近未来戦略（北大近未来戦略150）」が承認されました。この目標と計画骨子は2013年4月以来、山口佳三総長の指揮の下、現執行部が総力を挙げて策定を進めてきたものです。しかし、この戦略は突然に出現したものではありません。本稿では、本学が「北大近未来戦略150」を制定するまでの経緯を紹介し、その意義について私見を述べたいと思います。

「北大近未来戦略150」の前文で触れているように、北海道大学は1876年の札幌農学校設立以来138年に及ぶ長い教育と研究の歴史の中で、「フロンティア精神」、「国際性の涵養」、「全人教育」及び「実学の重視」という4つの基本理念を建学の精神として掲げ、一貫してそれらを培ってきました。そして2003年9月、国立大学法人への移行に際し、21世紀において本学が知の創成・伝承・実証の拠点として発展を続けるために必要な目標を、4つの基本理念を踏まえた「4つの長期目標」として策定しました。すなわち、「世界の課題解決に 대응できる世界水準の研究の推進」、「グローバルな視点で活躍できる国際人の育成」、「自由・自主独立の精神の涵養と社会的要請に対応しうる人材の育成」、及び「実学重視の理念の普遍的かつ今日的意義の追求」です。その後、約10年が経過しました。この10年間に我が国では少子高齢化、地域コミュニティの衰退、グローバル化によるボーダレス化、新興国の台頭による競争激化等の急激な社会変化が進行し、それによって大学を取り巻く社会環境も大きく変化しました。そのような状況の中で、残念ながら、この長期目標の達成度はまだ十分とは言えません。

今、世界で様々なパラダイムシフトが進む状況の中で、我が国の国立大学が果たすべき役割が問われています。すなわち、知の拠点である大学は「イノベーションを創出し、社会の改革を主導できるような人材」を育成すべきで

あるというものです。この時、我々北大人はその人材像が、「長期目標」の中で本学が育成しようとしてきた人材像そのものであることに気が付きます。それを掲げてきた本学は今、そのような人材、そして日本及び世界の持続的発展に貢献できるような人材を積極的に育てるための体制を、迅速に整備すべきです。しかし本学がもし、従来と同じ考え方や体制でこの人材育成を進めようとするならば、それは現実には困難であると考えざるを得ません。迅速かつ確実に人材育成を達成するためには具体的な行動計画が必要であり、また、それには教育体制と研究体制とを連動させた様々な改革が必要になります。なぜなら、大学における教育と研究は表裏一体の関係にあるからです。

幸い、我が北大には、開学以来培ってきた教育・研究に関する多くの個性的な「強み」と、総合大学としての潜在力があります。今後、本学が教育及び研究において世界の大学と競っていくためには、知恵と総力を結集してそれらの強みを育て、潜在力を引き出し、それらを有機的に結合した教育・研究体制を再構築しなければなりません。そこには様々な制度改革も必要です。そこで開学150周年を迎える2026年を一つの節目と認識し、それまでの12年間に行うべき5つの目標と、それを達成するための具体的な25の行動計画骨子をまとめたのが「北大近未来戦略150」です。これは北大人が誇りを持って掲げることができる内容であると信じています。

今、本学では第3期中期目標・中期計画の策定作業が始まっていますが、その6年間は開学150周年を迎える2026年までの重要な前半期に当たります。「北大近未来戦略150」は第3期中期目標・中期計画策定の基本方針を示すものであり、もしまだ未読であった北大教職員には速やかに一読をお願いしたいと思います。

◆<http://www.hokudai.ac.jp/introduction/information/150150.html>

## ■全学ニュース

# 台湾 国立政治大学との大学間交流協定調印式を開催



署名後の山口総長と呉学長（左側）



調印式後の記念写真

6月19日（木）、台湾の国立政治大学との学術交流に関する協定及び学生交流に関する覚書の調印を執り行いました。調印式には、国立政治大学から呉 思華学長ら6名、本学から山口佳三総長、上田一郎理事・副学長、巨理格法学研究科長、常本照樹アイヌ・先住民研究センター長ら6名が出席しました。

国立政治大学は1954年に設立された大学です。文学、社会科学、理学、法学、商学、外国語文学、メディア学、国際事務学、教育学の9学院を有し、16,000人の学生と1,500人の教職員が在籍しています。本学では、法学研究科・法学部をはじめとして、公共政策学連携研究部・教育部やアイヌ・先住民研究センター、また文学研究科でも、そ

れぞれ同大学との交流を進めてきました。

本協定の締結により、両大学の更なる教育・研究交流の推進が期待されます。

（国際本部国際連携課）

## 第15回北大・九大合同フロンティア・セミナーを開催

6月10日（火）、ステーションコンファレンス東京（東京都千代田区丸の内）において、「文化を旅する－グローバル化時代の人文学」をテーマに第15回北大・九大合同フロンティア・セミナーを開催しました。

本セミナーは、本学と九州大学が現在進めている研究について、広く産業界、社会人、同窓生の皆様に知っていただき、各分野の方々との連携・交流を深めるため平成20年度から合同で開催しています。

第15回目を迎えた今回のセミナーは、様々な分野の方や多くの同窓生か

ら申し込みがあり、約150名の方々にご参加いただきました。

最初に登壇した本学の守川知子准教授（文学研究科）は、「過去からのメッセージをどう読み解くか－イランの世界遺産戦略」と題し、グローバル化時代の現代にあって、過去の遺跡や文化財に「人類の普遍的価値」をいかにして見出すのかを、イランの事例から具体例を挙げて講演を行いました。

次に、九州大学の井手誠之輔教授（九州大学大学院人文科学研究科）から、「時空の旅－大徳寺伝来五百羅漢図の場合－」と題し、仏画制作と地域

社会、外来美術の受容、東西美術の比較考察などについて、ローカルであると同時にグローバルな視点に開かれている事例として大徳寺伝来の五百羅漢図を取り上げてご講演いただきました。



挨拶する川端和重理事・副学長

パネルディスカッションでは、本学の谷古宇尚教授（文学研究科）がコーディネーターとなり、講演者の守川准教授と井手教授がパネリストとなって、講演内容を中心に参加者から寄せられた質問への回答を交えながら進められ、盛会のうちに終了しました。

今回は、11月12日（水）にステーションコンファレンス東京（東京都千代田区丸の内）で開催するほか、平成27年1月10日（土）には都市センターホテル（東京都千代田区平河町）で第10回九州大学・北海道大学合同活動報告会を開催します。

（研究推進部研究振興企画課）



講演を行う守川准教授



パネルディスカッションの様子

## 平成26年度北海道大学レーン記念賞授与式を挙



受賞者記念撮影



授与式の様子

6月24日（火）、高等教育推進機構中会議室において、平成26年度北海道大学レーン記念賞授与式を挙し、8名の学生が受賞しました。

レーン記念賞は1・2年次の英語の成績が特に優秀な学生を表彰する制度で、昭和40年から「レーン記念奨学金」として始まり、平成9年からは「レーン記念賞」と名を改め、今回を含め357名の学生に授与されています。

授与式では新田孝彦理事・副学長、渡邊 洋名誉教授、外国語教育センターから奥 聡准教授、土田映子准教授、そして西田久美子学務部長の列席のもの

と、奥准教授からレーン記念賞の歴史と、本賞に名をいただいているハロルド・Mレーン（Harold M. Lane）先生の功績についての説明がありました。

次いで新田理事・副学長から受賞者へ賞状、記念メダル及び図書カードが授与され、「皆さんには今後も英語力により一層磨きをかけて、国際性豊かで周囲から敬愛される人間を目指していただきたい」との挨拶がありました。

（学務部学生支援課）

### 受賞者

文学部	椿原 脩平
法学部	青柳 建矢
法学部	藤田 陽子
経済学部	五野井りほ
工学部	濱野 翔太
理学部	孫 溯青
医学部	西村紗弥花
獣医学部	島倉 綾乃

# 平成26年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 ～科学技術賞（研究部門）に理学研究院 見延庄士郎教授

理学研究院 見延庄士郎教授が「海洋大気結合変動に関する研究」により、平成26年度文部科学大臣表彰－科学技術賞（研究部門）を受賞されました。

本賞は、日本の研究者にとって極めて名誉あるものです。同氏の功績と略歴を紹介します。

(総務企画部広報課)



理学研究院 教授

みのべ しゅうしろう  
見延 庄士郎 氏

## 功績等

地球の気候の変動には、地球の2大流体圏である海洋と大気が重要な役割を果たしています。海洋と大気はどちらも、非常に薄い形状を持っており、水平方向の幅が1万kmの桁であるのに対して、高さ方向は数km（海洋）から10数km（大気の対流圏）程度でしかありません。この両者が地表の7割で接し、熱や運動量のやりとりを行い、地球の気候を維持し、また変動を生じさせています。しかし、数年～数十年スケールで大気と海洋にどのような変動が生じているのか、また大気と海洋が互いにどう影響しているのかなどについては未解明の点が多く、同氏はこれらの問題に大きく貢献しました。

同氏は、太平洋の大気と海洋に数十年変動が存在していることを示し、これらの気候変動と、気候のある状態から別の状態への急峻な変化である気候レジームシフトとが密接に関係することを明らかにしました。また、黒潮やメキシコ湾流など、大洋の西岸付近を流れる暖流が、その直上の大気の対流圏全層に及ぶ影響を引き起こしていることを、世界に先駆けて発見しました。これらの研究は国際的に高く評価されています。

同氏の研究によって、日本を含む太平洋域の長期の気候変動の理解と予測、さらに水産資源変動との関係などについて、有意義な知見が得られています。また黒潮やメキシコ湾流などと大気との相互作用に関する一連の研究は、東シナ海の黒潮が沖縄付近に降水の集中化をもたらすことや、黒潮大蛇行が東京の降雪の可能性を高めることなどの

社会的にも重要な成果に加え、国際的な研究発展に大きく貢献しました。

同氏の研究は、海洋・大気の変動及び変化の理解と予測に、その社会生活への影響を含めて、一層寄与することが期待されます。

## 略 歴

- 昭和60年3月 北海道大学理学部地球物理学科卒業
- 昭和62年3月 北海道大学大学院理学研究科地球物理学専攻修士課程修了
- 昭和62年4月 株式会社ビー・ユー・ジー入社
- 昭和63年3月 株式会社ビー・ユー・ジー退職
- 昭和63年4月 北海道大学大学院理学研究科地球物理学専攻博士後期課程入学
- 平成元年3月 北海道大学大学院理学研究科地球物理学専攻博士後期課程中退
- 平成元年4月 北海道大学理学部助手
- 平成7年4月 北海道大学大学院理学研究科助手
- 平成9年5月 } 北海道大学大学院理学研究科助教授
- 平成17年3月 } 北海道大学大学院理学研究科助教授
- 平成15年6月 } 文部科学省研究振興局学術調査官併任
- 平成18年7月 } 文部科学省研究振興局学術調査官併任
- 平成17年4月 北海道大学大学院理学研究科教授
- 平成18年4月 北海道大学大学院理学研究院教授

(理学院・理学研究院・理学部)

## 第24回北海道大学教育ワークショップ（FD）を開催



教育ワークショップ参加者

本学に採用されてから5年未満の教員を対象とした教育ワークショップを6月13日（金）・14日（土）の両日、北広島市の北広島クラッセホテルを会場に合宿形式で開催しました。

このワークショップは、本学のFD（ファカルティ・ディベロップメント）の一環として、平成10年度から毎年実施しているもので、平成19年度からは、春と秋の年2回実施しています。今回は「学生主体型授業をめざして」をテーマに開催しました。本学の教員等37名の参加があり、仮想的な授業科目を立案し、そのシラバスを作成することにより、教育の基礎を理解し、新しい教育手法を身に付けることを目指しました。

初日は新田孝彦理事・副学長の挨拶に始まり、「学生主体型授業の挑戦」、「講義題目・目標の設定」、「学習（授業）方略と学習評価」などのレクチャーを挟みながら、プログラムが進められました。

このプログラムでは、参加者は5グループに分かれ、レクチャー、グループ討論、中間発表とリフレクション作業、最終発表と全体討論をセットにして2回行い、シラバスを具体的に作り

上げていく過程を通して、授業の目的・内容・評価方法の3つの基本的要素を体験的に学びました。また、今回初の試みとして、2日目には各グループによる模擬授業を行い、研修の成果を披露しました。

その他、今回初めて外部講師を招き、山形大学教授の小田隆治氏から、経験豊富な実践家の立場で学生主体型授業についてのレクチャーをいただきました。また、本学の卒業生である稲葉一輝氏を招き、在学中にTAを5年間勤めた経験を踏まえ、学生にとって魅力的な授業は何かについて話していただきました。

最後に、参加者に修了証書が手渡され、全ての日程が終了しました。

参加者は初日の終了時間になっても模擬授業の準備を自主的に続ける熱心さを見せていました。その成果は、参加者を学生と見立てて行われた模擬授業に現れ、クラス全体を巻き込むような授業が展開されて大変盛り上がりました。参加者の多くが、学生を前面に押し出すタイプの授業に手ごたえを感じていたようです。

（高等教育推進機構）



グループ討論の様子

## 北大キャンドルナイト2014を開催

6月19日（木）に、本学正門周辺及び百年記念会館周辺で“北大キャンドルナイト2014”を開催しました。「キャンドルナイト」は夏至の夜に電気を消してスローに過ごそうという趣旨のイベントで、本学は今年で4回目の「さっぽろキャンドルナイト」への参加となりました。

午後8時から10時まで、正門から百年記念会館周辺までの街路灯を消灯し、キャンドルおよそ400個を並べて

灯しました。特に百年記念会館周辺では、サクシュコトニ川の周りや木々の周りにキャンドルを配置した幻想的な雰囲気の中、本学ギターアンサンブル部によるコンサートがあり、家族連れや友達同士など、およそ500名の皆様が、穏やかなギターの調べを聞きながらゆったりとした時間を過ごしていました。

この夜消灯した街路灯の消費電力量はおよそ2.8kWhで、2.0kg-CO<sub>2</sub>相当を

削減したことになります。主催した学生団体SCSD(The Students Council for Sustainable Development in Hokkaido University)をはじめ、色々な方々のご協力でとても素敵なキャンドルナイトになりました。

(サステイナブルキャンパス推進本部)



キャンドルナイトの様子



## 構内の伐採木・剪定枝を配布

6月22日(日)、札幌キャンパス構内で発生した伐採木・剪定枝およそ20m<sup>3</sup>(熱量換算で灯油約4,000L、9.6ton-CO<sub>2</sub>相当)を、薪として市民の皆様に配布しました。

63名から申し込みがあり、抽選で37名が選ばれ、うち28名が来場しました。配布イベントは今年で3年目ですが、5月初旬より薪ストーブユーザーから「今年の配布時期はいつか」といった問い合わせが相次ぎ、多くの方が待ち望む毎年恒例のイベントとして定着してきています。今回初めて、事前に裁断と薪割りを済ませてから配布したため、より好評を得ました。来場者自身が自家用車に好みの薪を積み込み、事故もなく、無事終了しました。

本学のサステイナブルキャンパス構築に対する取り組みには様々なものがありますが、この配布イベントは、節電、省エネと並んで、カーボンニュートラル\*な木質バイオマスエネルギーを活用し、直接的にCO<sub>2</sub>を削減できる貴重な取り組みとなっています。

### \*カーボンニュートラル

木質バイオマスを燃料として使用しても、植物の成長過程で吸収されたCO<sub>2</sub>(二酸化炭素)が大気中に放出されるため、大気中のCO<sub>2</sub>量の増減はない。これをカーボンニュートラルと言う。このため、化石燃料の代わりに木質バイオマスを使用することは、CO<sub>2</sub>の排出削減につながる。

(サステイナブルキャンパス推進本部)



配布開始時の様子



配布終了時の様子

## サステイナブル・キャンパス・コンテスト最優秀賞 「ウッドデッキ再生プロジェクト」の完了

学生団体SCSD(The Students Council for Sustainable Development in Hokkaido University)は、平成22年度より毎年秋に「サステイナブル・キャンパス・コンテスト」を開催しています。

これは、「持続可能な社会の実現」に繋がる実行可能なサステイナブル・キャンパス・プロジェクトを学生から募集するもので、最優秀賞の副賞は、提案プロジェクトの実現に向け必要な費用となっています。

昨年のコンテストでは、北大カフェ

プロジェクトが提案した「ウッドデッキ再生プロジェクト」が最優秀賞を受賞しました。破損している総合博物館横のウッドデッキを再生し、本学の貴重なパブリックスペースを取り戻すという内容です。

今回この副賞を基に、学生団体SCSDが中心となり、プロの造園業者の意見や総合博物館との調整を通して、提案した北大カフェプロジェクトとともに総合博物館横のウッドデッキ再生を行い、6月初旬にようやく完成

しました。6月5日(木)～8日(日)に行われた北大祭では、北大カフェプロジェクトの皆さんが、再生したウッドデッキを「北大祭カフェ」で活用しました。

今後もサステイナブルキャンパス推進本部では、学生主体のサステイナブルキャンパス構築に関する活動を資金面や企画・運営へのアドバイスを通じてサポートしていきます。

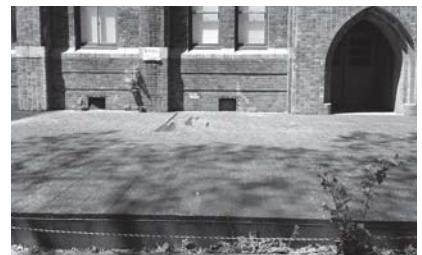
(サステイナブルキャンパス推進本部)



改修前

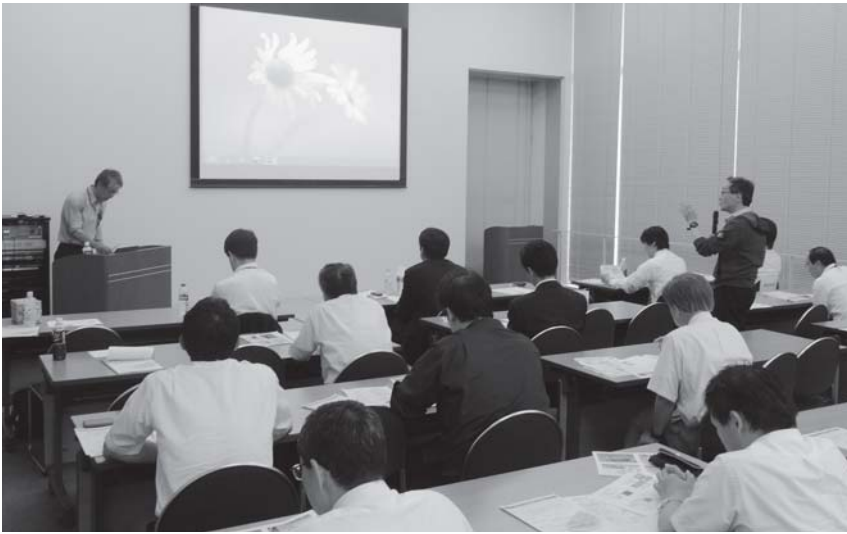


改修作業の様子



完成後

## 第8回「食と健康」研究会を開催



活発に交わされる質疑応答

6月27日（金），創成科学研究棟大会議室において，産学連携本部が主催する第8回「食と健康」研究会を開催しました。今回は『乳』をキーワードとしてその機能性，加工，乳の分泌機構と，幅広いテーマについてご講演をいただき，企業，大学，公設試験研究機関関係者など77名の方にご参加いただきました。はじめに森永乳業株式会社の武田安弘栄養科学研究所長より「研究シーズと「食」開発 ～医療食開発の現場経験から～」と題して，これまで開発を行ってきた高機能性食品や流動食の開発について，具体的な事例を示しながら，開発の苦労や美味しさへのこだわり，また今後の展望について熱く語っていただきました。

若手研究者による研究発表では，地方独立行政法人北海道立総合研究機構食品加工研究センターの八十川大輔研究主幹より「非スターター乳酸菌を活用したおいしい道産チーズ製造技術開発」，本学農学研究院の小林 謙助教からは「ミルクのつくり方～乳腺上皮細胞における乳汁分泌機構の解明～」，保健科学研究院の早坂孝宏特任助教か

らは「質量分析イメージングの食と健康研究への応用」と題して，それぞれ発表がありました。

本研究会では，「食と健康」をテーマに学内外の講師，若手研究者が研究成果等を発表するとともに，企業等の皆様との意見交換の場を設けています。この研究会は，安全・安心で高品質な「食」に恵まれた北海道において「食」「健康」「医療」分野のプロジェクト立ち上げと，その取り組みを創出するための産学官のプラットフォームとして機能することを目指し，定期的に開催されています。

本研究会の事務局は，産学連携本部が担っていますが，今後も皆様の期待に応えられるよう，新たなプロジェクト形成に向けて関係者のご協力を得ながら具体的な成果の創出を目指して参ります。

本研究会に興味のある学内研究者は，お気軽にお問い合わせください。

◆連絡先：jigyo@mcip.hokudai.ac.jp

（産学連携本部）



森永乳業（株）栄養科学研究所 所長 武田氏



（地独）北海道立総合研究機構 研究主幹 八十川氏



農学研究院 助教 小林氏



保健科学研究院 特任助教 早坂氏

## 第1回フード&メディカルイノベーション推進本部 運営委員会を開催

6月17日（火），事務局第一会議室において「第1回フード&メディカルイノベーション推進本部運営委員会」を開催しました。

フード&メディカルイノベーション推進本部は，食と健康と医療の連携による新たな産業や雇用を創出するための革新的な研究開発事業を実施するため，本学，本学以外の研究機関及び企業並びに国等が参画する産学官連携拠点であるフード&メディカルイノベーション国際拠点における研究開発事業

の推進及び支援を行うことにより，我が国のイノベーション創出に貢献することを目的とする運営組織として，平成26年4月に設置されました。

本委員会は，学内委員7名のほか，産業界の有識者である学外委員9名を含む，計16名で構成されています。

会の冒頭で，委員長である川端和重本部長から当本部の運営にあたっては，大学の外部との対話が必要不可欠であり，忌憚のない意見をいただきたい旨の挨拶がありました。

その後，当本部設置の意義について説明が行われた後，各委員から当本部の方針及び業務等について意見交換がなされ，活発な議論が行われました。

本委員会終了後，レストランニコラスハウスにおいて懇親会を開催し，委員間の交流が深まる場となりました。

（フード&メディカルイノベーション推進本部）



挨拶する川端本部長（右から3人目）



委員会の様子



発言する浜田剛一委員（一般社団法人北海道食産業総合振興機構）  
（左から2人目）



事業説明する吉野正則委員（株式会社日立製作所）

# 北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動することとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報	15,943件 2,865,677,469円
基金累計額 (6月30日現在)	教職員の寄附率 32.1% (1,259件/3,921人)

## 6月のご寄附状況

法人等3社、個人795名の方々から5,649,581円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、総合博物館への銘板の掲示、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。(五十音別・敬称略)

### 寄附者ご芳名 (法人等)

喜田宏教授退任記念基金、北大看護 第7期卒業生一同、北大野球部OB会

### 寄附者ご芳名 (個人)

合川 正幸	浅野 賢二	安達 弘高	五十嵐 秀	入澤 秀次	岩永 政義	上田 利文	上田 雅敏
大内 継也	大杉 次男	小内 透	小原 大和	埴山 雅秀	加賀 幸彦	加藤美津江	金川 眞行
亀 昌治	河本 充司	木村 園子 ドロシア	日下 一也	合田 憲夫	後藤 康方	小林 忠勝	斉藤 久
齊藤 義晴	佐久間 崇	桜井 謙介	佐々木勝也	佐々木豊実	佐藤 優子	清水 智之	清水 洋
清水池義治	志村 享	須藤 公彦	関根 伸一	瀬戸 務	瀬名波栄潤	高橋真奈美	高橋 光彦
田中 誠治	土家 琢磨	都留 信也	寺澤 睦	豊田 威信	中 道雄	中嶋 博	中司 哲雄
中西 幸二	長沼 昭夫	西本 力蔵	林 正敏	福田 文治	星野 謙蔵	本間 昭一	増山 昌弘
松井 恭行	三上 正哉	宮坂 正昭	向井地博之	矢ヶ崎啓一郎	柳田 節	山内 隆嗣	山崎 賢司
山崎 卓	横山 木作	横山 清	横山 久子	吉田 広志	吉村 淳		

### 銘板の掲示 (20万円以上のご寄附)

#### (法人等)

北大野球部OB会

#### (個人)

大杉 次男、佐々木豊実、都留 信也、長沼 昭夫、松井 恭行、横山 久子

## 感謝状の贈呈



北海道大学 香蘭会様（平成26年6月25日）

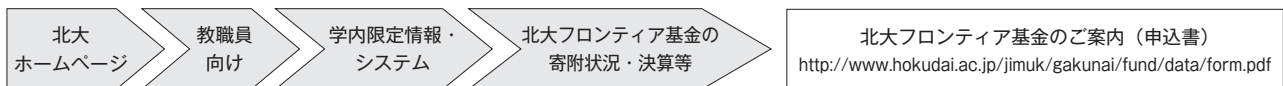


加藤紘之様（平成26年6月26日）

## ご寄附のお申し込み方法

## ① 給与からの引き落とし

申込書は、本学ホームページの「学内限定情報・システム」からダウンロードし、ご記入の上基金事務室に提出してください。



## ② 郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお渡します。

## ③ 現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、事務局財務部経理課収入担当にご持参ください。申込書は、本学ホームページから上記①の要領でダウンロードしてご記入いただくか、各部局事務担当及び事務局財務部経理課収入担当にご用意していますので、ご利用ください。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室（事務局・学内電話 2017）

（総務企画部広報課）

# 平成25年度北海道大学外国人留学生後援会の決算

「北海道大学外国人留学生後援会」は平成15年4月に発足し、10年が経過しました。

この間、多くの方々に本後援会にご加入いただき、ご協力、ご支援をいただきましたことを本誌面をお借りしてお礼申し上げますとともに、平成25年度決算を報告します。

本後援会は、会員の皆様からの拠出金をもとに、留学生の賃貸住宅入居に伴う連帯保証に係る支援、留学生の入

院に伴う連帯保証に係る支援、留学生の疾病等に対する経済的支援、留学生の不測の事故等に対する経済的支援、留学生を支援する団体に対する経済的支援、一時金貸付制度による経済的支援を主な事業として活動しています。

これらの事業を継続的・安定的に運営するために、是非ご加入くださいますよう、また加入人口を増加していただけますようお願い申し上げます。加入についてのお問い合わせは国際本部

国際支援課をお願いします。

なお、皆様の会費は北大フロンティア基金の寄附金として取り扱うこととなっており、年2千円を超える場合は税法上の優遇措置を受けることができます。

今後とも、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

(国際本部国際支援課)

## 平成25年度北海道大学外国人留学生後援会決算書

自) H.25.4.1

至) H.26.3.31

### 1. 収入の部 (平成26年3月31日現在)

単位：円

事 項	予 算 額	決 算 額	備 考
前年度からの繰越	36,710,271	36,710,271	
会費	3,332,400	3,216,600	6月期徴収額 1,601,400 12月期徴収額 1,615,200
立替払返戻金	0	51,713	1件 (24年度立替分)
一時金貸付金返戻金	0	50,000	1件 (24年度貸付分)
収入合計	40,042,671	40,028,584	

### 2. 支出の部 (平成26年3月31日現在)

単位：円

事 項	予 算 額	決 算 額	備 考
留学生の賃貸住宅入居に伴う連帯保証に係る支援	1,000,000	0	
留学生の入院に伴う連帯保証に係る支援	1,000,000	0	
留学生の疾病等に対する経済的支援	500,000	0	
留学生の不測の事故等に対する経済的支援	7,000,000	0	
留学生を支援する団体に対する経済的支援	500,000	575,390	
予備費	30,042,671	0	
支出合計	40,042,671	575,390	

### 3. 差引額

単位：円

翌年度に繰越	—	39,453,194	
--------	---	------------	--

## ■ 部局ニュース

# 「フロンティア応用科学研究棟」落成式，落成記念式典，落成記念講演会，落成記念祝賀会を開催

6月12日（木）に、工学系団地内に設置されたフロンティア応用科学研究棟の落成を記念し、落成式，落成記念式典，落成記念講演会及び落成記念祝賀会を、同研究棟内で開催しました。

同研究棟は、平成22年10月にノーベル化学賞を受賞した鈴木 章名誉教授（元本学工学部教授）の功績を継承し、後進を育成する目的で、研究・教育の拠点として工学系団地内に設置されたものです。地下1階，地上7階，塔屋1階のSRC構造で、建築面積1,752㎡，延床面積10,558㎡の規模を誇り、研究室や実験施設，セミナー室のほか，2階には鈴木名誉教授の名前を冠した「鈴木 章ホール」（収容人数235名）や鈴木名誉教授の所縁の品の展示スペースがあるホワイエなどの施設が設置されています。

同研究棟1階のエントランスホールで開催された落成式では、大熊 毅工学部教授による講演が行われ、招待者約170名のほか、学生約90名が熱心に聴き入っていました。各講演の後には質疑応答の時間が設けられ、活発な意見交換が行われました。

落成記念講演会終了後には、会場を1階のセミナー室及びエントランスホールに移し、落成記念祝賀会が行われました。名和工学部教授の挨拶の後、関文部科学省大臣官房文教施設企画部長，鈴木名誉教授，山口総長，三上 隆理事・副学長，村田直樹理事・事務局長，名和工学部教授，大熊工学部教授による「自己組織化によるナノスケール物質創成」と題した講演並びに、鈴木名誉教授による「Cross-Coupling Reactions of Organoboranes: An Easy Way for Carbon-Carbon Bonding」と題した講演が行われ、盛況のうちに閉会となりました。

引き続き、会場を2階の鈴木 章ホールに移して行われた落成記念式典では、山口総長，名和工学部教授からの式辞の後，関文部科学省大臣官房文教施設企画部長から祝辞をいただきました。

落成記念式典に次いで同ホールで行われた落成記念講演会（本学及び公益財団法人杉野目記念会による共催）では、藤田 誠東京大学大学院工学系研究科教授による「自己組織化によるナノスケール物質創成」と題した講演並びに、鈴木名誉教授による「Cross-Coupling Reactions of Organoboranes: An Easy Way for Carbon-Carbon Bonding」と題した講演が行われ、盛況のうちに閉会となりました。

落成記念講演会終了後には、会場を1階のセミナー室及びエントランスホールに移し、落成記念祝賀会が行われました。名和工学部教授の挨拶の後、関文部科学省大臣官房文教施設企画部長，鈴木名誉教授，山口総長，三上 隆理事・副学長，村田直樹理事・事務局長，名和工学部教授，大熊工学部教授による「自己組織化によるナノスケール物質創成」と題した講演並びに、鈴木名誉教授による「Cross-Coupling Reactions of Organoboranes: An Easy Way for Carbon-Carbon Bonding」と題した講演が行われ、盛況のうちに閉会となりました。

落成記念講演会終了後には、会場を1階のセミナー室及びエントランスホールに移し、落成記念祝賀会が行われました。名和工学部教授の挨拶の後、関文部科学省大臣官房文教施設企画部長，鈴木名誉教授，山口総長，三上 隆理事・副学長，村田直樹理事・事務局長，名和工学部教授，大熊工学部教授による「自己組織化によるナノスケール物質創成」と題した講演並びに、鈴木名誉教授による「Cross-Coupling Reactions of Organoboranes: An Easy Way for Carbon-Carbon Bonding」と題した講演が行われ、盛況のうちに閉会となりました。

（工学院・工学部）



落成式：テープカットの様子



落成記念式典：式辞を述べる山口総長



落成記念講演会：藤田東京大学大学院工学系研究科教授による講演



落成記念講演会：鈴木名誉教授による講演



落成記念祝賀会：名和工学部教授からの挨拶



落成記念祝賀会：鏡開きの様子

## 医学研究科附属動物実験施設完成披露・祝賀会を挙行

医学研究科では、附属動物実験施設の改修工事が完了したことを記念して、7月4日（金）に完成披露・祝賀会を行いました。

完成披露には、三上 隆理事・副学長、上田一郎理事・副学長を交えた事務局関係者の他に、歴代の動物実験施設長、関係部局の教職員の方々にご出席いただき、施設職員による案内のも

と、明るく近代的に生まれ変わった施設の見学が行われました。

引き続き開催された祝賀会では、笠原正典医学研究科長、有川二郎動物実験施設長からの挨拶に続き、三上理事・副学長から乾杯のご発声の後に祝宴となり、最後は吉岡充弘医学研究科副研究科長の締め乾杯により、盛会のうちに終了となりました。

本施設は、昭和49年に新築落成されてから40年余りの間、医学研究科の教育・研究の発展に貢献してきました。

この度の改修により、今まで以上にハード面だけではなく、ソフト面についても、より一層利用者のニーズに応えることが期待されます。

(医学研究科・医学部)



施設改修後の外観



有川施設長の説明



施設見学の様子



## 農学研究院・農学院・農学部が農林水産分野において 北海道農政部・水産林務部と連携推進に関する覚書を締結

農学研究院・農学院・農学部は、6月12日（木）に北海道農政部・水産林務部と農林水産分野における産業振興・人材育成をテーマとした連携推進に関する覚書を締結しました。締結の調印は、北海道の竹林 孝農政部長、山崎峰男水産林務部長、本学 丸谷知己農学研究院長により行われました。

この覚書は、平成16年に本学が北海道や北海道経済連合会と人材交流等を進める目的で締結した「地域連携協定」のもとに、農林分野における具体的な連携の強化に向けて取り組みを実施するために締結したものです。

今後は、7月中に具体的な事業推進のための「連携会議」を設置すること

になっており、北海道の農林水産分野が抱える課題に、大学と行政が協力して取り組んでいくこととなります。また、学生、職員との人材交流や公開講

座、シンポジウムの開催などが予定されています。

（農学院・農学研究院・農学部）



左から山崎水産林務部長、丸谷農学研究院長、竹林農政部長

## 公共政策学連携研究部及び教育部が株式会社北海道新聞社と 連携協定を締結

公共政策学連携研究部及び教育部と株式会社北海道新聞社は、双方の協力により、北海道を取り巻く現状を研究、分析、報道、提言することによって北海道を含む広く内外の発展に寄与することを目的として、6月3日（火）に連携協定を締結しました。

北海道新聞社と公共政策学連携研究部及び教育部の間には、これまでの報道における研究成果、分析手法の提供など多方面にわたる協力関係の基盤があり、今回の連携協定締結へとつながりました。

当日は、北海道新聞社本社で調印式が執り行われ、広瀬兼三北海道新聞社取締役経営企画局長、山崎幹根公共政策学連携研究部長から挨拶がありました。

6月21日（土）には人口減少社会への対応をテーマとした連携記念シンポジウムを共同開催しました。これを

きっかけに、一層の知的・人的交流を図ることが期待されます。

（公共政策学教育部・公共政策学連携研究部）



連携協定締結後に握手を交わす広瀬経営企画局長（右）、山崎公共政策学連携研究部長（左）

# 水産科学研究院が「食とバイオ国際交流シンポジウム2014」を開催

水産科学研究院では、6月3日（火）に函館市国際水産・海洋総合研究センターにおいて、北海道経済産業局、公益財団法人函館地域産業振興財団との共催により、「食とバイオ国際交流シンポジウム2014」を開催しました。

冒頭、増山壽一経済産業省北海道経済産業局長（当時）の挨拶に続き、安井 肇水産科学研究院長から「函館とシンガポールが関係を深め、新しいビジネスの展開や研究につなげてほしい」との期待を込めた挨拶がありました。

続いて本研究院の都木靖彰教授より、今年3月にシンガポール国立大学理学部と学術交流協定を締結したことや、同国との水産分野での国際共同研究の推進、ビジネスの発展を促進する目的でシンガポールのオフィス街に設

置した「水産科学研究院シンガポールオフィス（準備室）」の紹介が行われました。

シンポジウムでは、シンガポールから参加された3名による講演が行われ、シンガポール国立大学食品科学技術プログラム長のZhou Weibiao教授からは同国での食品加工分野の研究について、シンガポール農産物・家畜庁（AVA）ポストハーベスト部門長のKhoo Gekhoon氏からは同国での産学官の共同研究成果について、シンガポールNTUCフェアプライスデュピティディレクターのEdokin Tan氏からは同国での食品ビジネスについて、それぞれ興味深い講演がありました。

また、本研究院の宮下和夫教授は、海藻に含まれる色素「フコキサンチン」が肥満や糖尿病を抑える作用で注目さ

れていることを紹介しました。民間企業2社からは魚類より抽出する機能性食品の紹介、貿易ノウハウを活用した道産品のシンガポール展開の紹介があり、道内から集まった水産関係のビジネスマンなど約200名が講演に聞き入っていました。シンポジウム会場の隣接するホールでは、研究成果のポスターセッションや、函館市内の企業等による産学官連携の成果品の展示会を実施しました。

本研究院では、今後シンガポールにおいて国際共同研究などを進め、産業振興に貢献できるよう邁進していきます。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）



講演をするシンガポール国立大学 Zhou教授



シンガポールオフィス（準備室）の紹介



研究成果の発表、成果品展示の様子



産学官連携の成果品展示の様子

# 総長みずから数理連携による大学院教育の推進を宣言 物質科学の博士課程教育リーディングプログラム特別講演会を開催

平成25年度から採択された物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラムでは、7月3日（木）に特別講演会を開催しました。この取り組みの主眼の一つである数理連携教育について、数学が専門の山口佳三総長みずからが主導して推進すると決意表明し、東北大学原子分子材料科学高等研究機構（AIMR）の西浦廉政教授が数理連携研究の先行事例を紹介しました。

山口総長はまず幾何学の歴史からスタートし、非ユークリッド幾何学で直感的に理解できない世界へ進み、解析幾何学からガウスの曲面論への進歩で計算モデル化が進んだと説明しました。これらの事例から、物質科学を俯瞰しフロンティア開拓につながる数理連携教育を主導する決意を表明しまし

た。続く西浦教授は多分野による対話の重要性について講演し、18世紀の英バーミンガムで化学工業の創始の引き金のひとつとなった月例懇親会「ルナー・ソサエティ」や、近年の東北大学での数理連携研究の成果などを幅広く紹介しました。

イベントの最後には本プログラムのコーディネーターである理学研究院副研究院長の石森浩一郎教授も加わり、数学連携研究センター長の津田一郎教授の司会で総合討論を実施しました。数学者に限らない他の分野の研究者との交流の重要性のほか、数学者が多くの分野の研究者から最新動向を聞く意義も議論されました。

本プログラムは、総合化学院総合化学専攻、生命科学院生命科学専攻、環境科学院環境物質科学専攻、理学院数

学専攻、工学院量子理工学専攻が参加しており、博士前期（修士）課程1年次10月から定員20名を受け入れていきます。博士後期課程の標準修業年限まで続く毎月15万円程度の経済支援のもとに、さまざまな取り組みで、横断的知識と考え方を備えた産業界をリードする博士を目指します。また、多分野融合教育を基盤に、数理連携と科学技術コミュニケーションにも取り組みます。来年度には研究発表倫理と科学技術広報にフォーカスした特別講演会の開催を検討しており、本プログラムに参加する大学院生のみならず広く社会に向けての情報発信を進めていく予定です。

（総合化学院）



山口総長は数学の力と総長のリーダーシップを語る



東北大学AIMRの公用語である英語のスライドで説明する西浦教授



津田教授（左端）のリードで会場からの質問も受けて対話を進行

## 会計専門職大学院で開設10周年記念セミナーを 一般社団法人日本内部監査協会と共同開催

会計専門職大学院（経済学研究科会計情報専攻）では、6月9日（月）午後2時から学术交流会館小講堂において、開設10周年記念行事の1つとして、「内部監査基準の改訂と内部監査に対する新たな期待」というテーマで、一般社団法人日本内部監査協会との共催セミナーを開催しました。（後援：札幌証券取引所）

セミナーでは、はじめに相山女学園大学教授の武田和夫氏が、「内部監査基準の改訂について」と題して講演を行いました。この度10年ぶりに改訂された内部監査基準について、改訂の背景・経過、並びに主な改訂点について詳細な説明がなされました。

続いて、「内部監査基準の改訂と内部監査に対する新たな期待」というテーマの下で、関西電力株式会社経営監査室長の島戸俊明氏、北海道ガス株式会社監査室長の山崎秀樹氏、並びに武田

氏をパネリストとしてパネル討論会を行いました。（モデレータ：会計専門職大学院教授 蟹江 章）

内部監査基準の改訂にも携わった島戸氏は、改訂時の議論を踏まえながら、実務家の視点から改訂の意義や課題について考えを述べられました。山崎氏は、内部監査基準を実際に適用して監査を実施する立場から、この度の基準改訂の意義・課題に加えて、実務に期待されている新たな役割について意見を述べられました。

武田氏は、内部監査の研究者として、また、内部監査基準の改訂作業に中心的なメンバーとして携わった立場から、改訂基準が内部監査の現場に期待している役割について考えを示されました。

中・長期的な視点で内部監査の基本方針を明らかにした上で監査を実施していくことの重要性、監査人の能力の

維持・向上に向けた取り組み、企業を連結集団として捉えてリスク・マネジメント、コントロール、ガバナンスに関連する経営活動を対象として監査を実施することの意義などについて、活発な討論が行われました。

改訂基準公表後初めて開催される内部監査基準をテーマにしたセミナーでもあり、企業の内部監査担当者や自治体の監査関係者、会計専門職大学院の学生など道内外から約130名の参加者があり、内部監査に寄せられる役割や期待についての議論に熱心に耳を傾けていました。

経済学研究科・会計専門職大学院では、地域社会への研究成果の発信や地域社会との意見交換を目指して、今後もこのようなセミナーや研究会を開催していきます。

（経済学研究科・経済学部）



相山女学園大学 武田氏



パネル討論会

## 会計専門職大学院において公認会計士・監査審査会会長による特別セミナーを開催

会計専門職大学院（経済学研究科会計情報専攻）では、6月17日（火）に人文・社会科学総合教育研究棟W102教室で北海道財務局の協力を得て、金融庁公認会計士・監査審査会会長の千代田邦夫氏及び株式会社NTTドコモ北海道支社の阿部剛己氏を講師に招き、特別セミナーを開催しました。

公認会計士・監査審査会は、金融庁において公認会計士試験の実施のほか、監査法人及び公認会計士が行う監査の品質についての審査及び検査などの業務を所掌する行政機関です。

千代田会長は、「今、世界の会計・監査は」とのテーマで、公認会計士制度の歴史的変遷とグローバルマーケットの視点からの国際会計基準の進展などについて講演されました。歴史ある会計制度と変革しつつある会計基準の現状を過渡期と捉え、収斂すべき方向性について示唆されました。

また、阿部氏は、株式会社NTTドコモ北海道支社に勤務する公認会計士としての立場から、「組織内会計士の活躍の場」とのテーマで、組織内に所属する公認会計士の役割や活躍可能な部署における業務内容について講演されました。自らの体験談を踏まえた説得力のある説明は、大変わかりやすく、公認会計士資格と職場の多様性についての相関は、学生の視野を拡大することに寄与したものと思われま

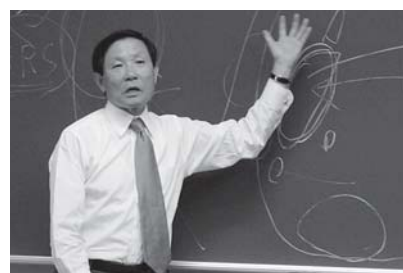
す。当日は、会計専門職大学院及び経済学部の学生と教員を中心に48名が参加し、盛況のうちに講演会を終了しました。

会計専門職大学院では、関係機関と協力して、今後もこのようなセミナーを開催していきたいと考えています。

（経済学研究科・経済学部）



講演会の様子



金融庁公認会計士・監査審査会 千代田会長

## 会計専門職大学院で公認会計士制度説明会を開催

会計専門職大学院（経済学研究科会計情報専攻）では、日本公認会計士協会北海道会の協力を得て、6月27日（金）に、人文・社会科学総合教育研究棟W102教室において、公認会計士制度説明会を開催しました。

この説明会では、公認会計士が業務として何をしているのかについて説明し、公認会計士試験制度の最新の情報を提供しています。さらに、最近資格試験に合格した若手の会計士から公認会計士としての仕事と試験準備の経験談などが語られました。公認会計士自身が最新の生の情報を提供することで、経済学部ばかりでなく広く本学の学生に公認会計士についての正しい認識を持ってもらい、資格取得を目指す学生に具体的な指針を提供することを目指しています。今年は学部の1年生から大学院生までの17名の学生の参加がありました。

説明会では、五十嵐康彦日本公認会

計士協会北海道会広報委員会委員長の司会進行により、まず石若保志日本公認会計士協会北海道会会長による説明会の趣旨説明と米山祐司会計専門職大学院長による挨拶の後、西原昇一日本公認会計士協会会員（本学経済学部出身）が公認会計士の業務についてと平成25年度試験合格者の状況と採用状況について説明しました。

さらに、最近公認会計士試験に合格して現在すでに会計士業務に携わっている高崎裕介日本公認会計士協会北海道会会員と佐竹友梨香日本公認会計士協会北海道会準会員（本学会計専門職大学院出身）から、ご本人の公認会計士試験の受験体験と現在の実務体験についてのお話がありました。その後、質疑応答を行い、参加学生から熱心な質問を受けました。

（経済学研究科・経済学部）



公認会計士 佐竹氏



質疑応答の様子

## 経済学部で成績優秀者表彰式を挙

6月26日(木)、経済学部会議室において、経済学部「成績優秀者表彰制度」及び「英語力ブラッシュ・アップ・プログラム」による表彰式を行いました。

「成績優秀者表彰制度」は、前年度に修得した成績がGPA順位の上位者で、かつ、一定単位以上の学部専門科目を履修した者のうちから、学部長が学生の模範となるような成績優秀者を選考し表彰するとともに、Dean's List(成績優秀者名簿)に搭載し、末永くその努力と名誉を讃えることを目的と

しています。今年度は3年次学生10名、4年次学生10名の計20名が表彰されました。

また、「英語力ブラッシュ・アップ・プログラム」は、英語力の継続的な向上を自発的に図ろうとする学生に対するインセンティブとして教育助成金等を授与するもので、エントリーした学生全員にTOEIC・TOEFL受験料の一部を補助し、さらに指定期間において、そのスコアの向上が特に顕著であった者に対し特別表彰するものです。今回は4年次学生3名が特別表彰

されました。

表彰式では、吉見 宏経済学部長が出席者全員に表彰状と副賞を手渡した後、賞賛と激励の言葉を述べました。引き続き行われた懇親会では、新渡戸賞を受賞した本学部の2年次学生も招待され、親睦を深めました。経済学部では、今後も学生の学習意欲向上を促すための取り組みを行っていく予定です。

(経済学研究科・経済学部)



本年度の受賞者

# 環境科学院で北大祭・研究施設公開 「知ってなるほど環境科学」を開催

環境科学院では、6月7日（土）・8日（日）の2日間、北大祭・研究施設公開「知ってなるほど環境科学」を開催しました。

今回は、例年に引き続き8回目の開催となりましたが、企画の内容は、環境科学の実験の一部を11のテーマで体験する「環境科学を体験・観察しよう」、環境科学院の学生や教員の活動を紹介

する「大学院ってどんなところ？」などが行われました。

開催期間中、札幌市内・近郊、道外から720名近くの親子連れの小学生や中・高・大学生・一般の方などが訪れ、体験型の研究施設公開を楽しめました。

来場者にアンケート調査を実施したところ、「わかりやすく説明してもら

い、科学が好きになった」「いろいろな実験が楽しかった」「展示物はわかりやすく丁寧な説明で良かった」などの評価をいただきました。

今後も、企画の内容に改善を加え、市民の皆様に喜ばれる研究施設公開を開催していきたいと考えています。

（環境科学院・地球環境科学研究院）



科学実験を見学する来場者



鈴木カップリングの実験体験



研究紹介のポスター

## 5 研究所・センター合同で一般公開を開催

創成研究機構、低温科学研究所、電子科学研究所、遺伝子病制御研究所、スラブ・ユーラシア研究センターは、北大祭期間中の6月7日（土）に合同で一般公開を開催しました。多くの方に5部局全てを見て回って欲しいという願いも込めて、今年度も合同シールラリーを行いました。その結果、強風の悪天候にも関わらず、延べ4,500人以上の方に参加していただきました。

（創成研究機構、低温科学研究所、電子科学研究所、遺伝子病制御研究所、スラブ・ユーラシア研究センター）

### 創成研究機構

6月7日（土）、「創成研究機構一般公開」を開催しました。当日は、子ども連れのご家族を中心に幅広い年齢層の方がたくさん訪れ、北端にある研究棟が大いに賑わいました。今年のお来場者数は創成クイズチラシの配布数でカウントし、約830名に達しました。

午前中に実施したサイエンストーク「ここまで分かった『はやぶさ』による科学、さあ行くぞ『はやぶさ2』!」では、戦略重点プロジェクト研究部門産業利用拡大支援室の塚本尚義教授が「はやぶさ」の苦難の帰還の旅の状況や、イトカワのサンプル分析とその結果、今年12月に打ち上げが決まった「はやぶさ2」について、クイズや映像を交えて解説しました。会場のレストランポプラには子ども連れのご家族

などがたくさん集まり、熱心に聞き入っていました。

創成科学研究棟1階エントランスホールでは、展示&体験コーナーとして、特定研究部門のゲン チェンピン研究室による「ゲルと水の女王」、プロジェクト研究部門の宮崎忠昭研究室による「乳酸菌パワー」、研究人材育成推進室(L-Station)の川野 潤研究室による「光と宝石のふしぎ」の展示が行われ、夢中で実験・観察をする子どもたちや、展示担当者に熱心に質問をする人たちの姿が見られました。

また、今年、「はやぶさ」のサンプル分析を行った「同位体顕微鏡」見学ツアーを3回、創成研究機構の最先端装置が見られるオープンファシリティ見学ツアーを4回実施しました。各回

とも早くから定員に達するなど、来場者の関心の高さがうかがえました。

来場者からは「北大の最北端にこんなに立派な研究棟があってびっくりした」「子どもも楽しめる実験や企画があるので、もっと広く宣伝して欲しい」などのご意見・ご感想をいただきました。

また、参加研究者からも「子どもたちの笑顔が活力になった」などの声があり、今後の研究の励みとなったようでした。

創成研究機構では、今後も、市民の皆様と研究者が触れ合える機会の提供に努めて参ります。

最後になりましたが、開催にあたり、ご尽力いただきました教職員の皆様に厚く感謝申し上げます。



展示に見入る来場者



会場の様子

### 低温科学研究所

6月7日（土）に低温科学研究所において、一般公開を開催しました。本研究所では一昨年より大学祭期間中に一般公開を実施しており、今回は684名の方々のご参加をいただきました。

当日の天候があまり良くなかったためか、昨年度（784名）よりもわずかに少ない人数でしたが、多くの市民の

皆様にお越しいただきました。また、5研究所・センターが合同で実施しているシールラリーに加えて、大学祭で実施しているスタンプラリーにも参加しました。

一般公開では、日頃体験できない-50℃の南極擬似体験から、小さなお子さんでも喜んでいただける実験や、

大人に焦点を合わせた比較的高度な展示まで、9つの催し物を実施しました。特に、南極擬似体験は盛況で、48枚の整理券は午後2時にはなくなりしました。

また、実験コーナーでは、お子さんのみならず、お母さん、お父さんにも熱心に取り組んでいただきました。さ



らに展示では、説明する学生がたじたじとなるくらい高度な質問をされるシニアの方がいらっしやるなど、各ブースは終日大盛況でした。

実験や展示等を通して、多くの方に低温科学に興味を持っていただく貴重な時間となりました。お子さんが笑顔

で実験に取り組まれる様子を見ると、一般公開を開催して良かったと心より思っています。また、低温科学研究所では研究分野が多岐にわたるため、研究所内部の人間の互いの理解を深めることにも、一般公開は大変効果的でした。アンケートの結果を踏まえて、さ

らなる要望を取り入れた形で、来年度も是非とも開催したいと考えています。皆様のご協力と、ご来場いただきました市民の方々、関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。



風を見る模擬実験



樹木についての展示と解説

## 電子科学研究所

恒例の電子科学研究所の一般公開を、北大祭期間中の6月7日(土)に、電子科学研究所新棟(北キャンパス総合研究棟5号館)で行いました。悪天候にも関わらず、受付での集計で来場者数が981名と、実に多くの市民の方々にご来訪いただきました。特に家族連れが多く、小さなお子さんを連れのお母さんやお父さんの姿が目立ちました。

一般公開では、子どもから大人まで楽しめる体験型の展示や、サイエンス・トーク(市民講座)を行いました。体験型の展示は、光・物質・生き物・数理・環境という5つのテーマに関する14の展示を行いました。来場者からは「一つひとつのプログラムが、興味の湧く内容で、科学の世界が面白

く感じられた。いろいろ体験できてとても面白い。毎年楽しみにしています」といった嬉しいご意見をいただきました。午後からのサイエンス・トークでは、小松崎民樹教授と中垣俊之教授により「生命科学の最前線」のお話がありました。

北大祭で賑わう中央キャンパスから少し離れた北キャンパスで一般公開を行うに当たり、昨年度に引き続き今年度もペロタクシー(自転車タクシー)4台を、北18条門から電子科学研究所新棟まで無料運行しました。往復合わせて延べ771名がペロタクシーを利用されました。

また、昨年度に引き続き札幌市教育委員会から後援をいただいたのをはじめ、今年度は、北海道教育委員会、北

海道私立中学高等学校協会からも後援をいただきました。小樽市、江別市、石狩市、恵庭市の教育委員会にもご協力いただき、総計550を超える学校にポスターを事前配布することができました。北大祭とも連携して、北大祭のパンフレットやウェブにも掲載されたほか、北大祭のスタンプラリーにも参加しました。昨年度から開催している5つの研究所・センターによる一般公開の合同開催については「北大祭と一緒に楽して良い企画だと思う」といったご意見をいただきました。会場の玄関前は、終日、シャボン玉遊びをする子どもで賑わい、研究の紹介の枠を超えて、研究所と市民が一体となった一日となりました。



歯磨き粉を使って動く船の実験に見入る参加者



ペロタクシーを待つ列

遺伝子病制御研究所

遺伝子病制御研究所は、北大祭の開催に合わせ6月7日（土）に市民向け一般公開を行いました。3回目の開催となる今年は、予想をはるかに上回る2,100名強の方々にご来場いただきました。

生命科学の最先端研究を紹介する「サイエンストーク」では、3名の先生がそれぞれ「ゲノムの暗黒物質に迫る!」、「体のなかの、ジキルとハイド」、「不思議な不思議なデパワールド」というとても興味深いタイトルで講演しました。「ラボツアー」では実際の研究室を見学いただき、研究内容について分かりやすく説明しました。「体験学習コーナー」では簡単な実験、顕微鏡観察を行い、小さなお子さ

んが顕微鏡を熱心に覗いていました。各研究室の研究内容をポスターで紹介する「パネル展示」では、一般の方々が現役研究者と熱心にお話しをされていました。「クイズコーナー」では景品の北大クリアファイルの獲得を目指して、各研究室の研究内容にちなんだ問題に多くの方がチャレンジされました。また、クイズの内容について研究者に熱心に質問する中高生もいらっしゃいました。「ゲームコーナー」では景品の風船獲得を目指して、大勢の小さなお子さんが細菌をモチーフにした輪投げに挑戦していました。

多くの方に来場者アンケートにご協力いただき、「実験を体験できるコーナーをもっと増やしてほしい」という

意見を多くいただきました。研究所のスペースの問題もありますが、市民の皆様の声に添えていけるよう所員一丸となって取り組みたいと考えています。

私共にとって一般公開は“アウトリーチ活動”のひとつです。多くの市民の皆様の日頃の研究成果を分かりやすく説明することにより、当研究所の役割を広く認識していただけることは喜びであると共に、市民の皆様の声は今後の研究を進めるうえでの活力となりました。今後もこのように社会に対し適切に情報を発信し、市民の皆様が生命科学や研究者を身近に感じることが出来る場を提供することを心がけていきたいと考えています。



体験学習コーナー



サイエンストーク

スラブ・ユーラシア研究センター

スラブ・ユーラシア研究センターは、北大祭の開催に合わせ6月7日（土）・8日（日）に一般公開を行いました。今年は、2日間で300名強の来場者に恵まれました。

当センターでは7日に『サイエンストーク』を実施し、「チェルノブイリのいま、そして未来へ」「ポーランドとアイヌ：未知なる世界の奇跡の出会い」と題した講演には、多くの聴衆に参加していただきました。センター公開では、「あれも！これも！？スラブ・ユーラシア展」と題して、以下の4つの催しを実施しました。『モスクワからソチへ：ロシア2度目のオリンピック』『スラブ・ユーラシアの世界遺産』『こどものためのロシア・東欧

文学：DVD上映「チェブラーシカ」「ロシア版クマのプーさん」ほか』『写真で観るウクライナ危機』です。なかでも、DVD上映会では、日本ではめったに見ることのできないロシア・東欧のアニメ・絵本を用意し、多くの家族連れの方々に来ていただきました。アニメに熱心に見入る来場者の方々の姿を見て、たとえ言葉はわからなくても、アニメが発するメッセージは、世界中の子どもたちに訴えるものだということを強く実感しました。また、『写真で観るウクライナ危機』は、当センターの専門の研究員が現場で撮影した、世界でここでしか見ることのできない紛争現場の生の様子を伝えることができたかと思えます。

スラブ・ユーラシア研究センターは、立地の関係からどうしても会場が分かりにくく、たどり着くまで難儀したという声をいただきました。この点は、今後の課題として考えていきたいと思えます。当センターではこれまでも、数多くの市民講座や公開講座などを開催してきましたが、大学祭という大きな催しに合わせて、大人から子どもまで幅広い層の方々へ向けた企画を用意したことは新しい試みでありました。スタッフ同士で、試行錯誤しながら今回の企画を用意しましたが、この経験を活かして、次年度以降につなげていきたいと考えています。



サイエンストーク



会場の様子

## メディア・コミュニケーション研究院公開講座 「近代とその行方：アートとグローバル化とリスク」 が終了

メディア・コミュニケーション研究院では、平成26年度公開講座「近代とその行方：アートとグローバル化とリスク」を、5月14日から6月4日までの毎週水曜日、4名の講師が1回ずつ担当する形で、全4回にわたり実施しました。

本講座では、近代性を読み解き、脱近代と言える現代の諸問題を、当研究院の若手研究者が様々なアプローチで

明らかにしました。近代化とポスト近代の説明、19世紀の芸術表現、現代アメリカの政治が抱える諸問題、原発事故を事例としたリスク・コミュニケーションのあり方についての講義は、歴史的考察と現代性を組み合わせた多彩な構成となりました。

様々な社会的問題に興味をお持ちの受講者から、毎回鋭い質問がなされ、質疑応答の中から講師達も新たな発見

をすることもあり、活発で有意義な時間となりました。そして最終日には、計46名の受講生が修了証書を手渡され、本講座は盛況のうちに無事に終了しました。

(国際広報メディア・観光学院、  
メディア・コミュニケーション研究院)



授業風景



修了証書の授与

## 環境健康科学研究教育センターで「子どもの健康と発達」に与える社会経済要因の影響に関するセミナーを開催

環境健康科学研究教育センターでは、6月10日（火）、「『子どもの健康と発達』に与える社会経済要因の影響に関するセミナー」を開催しました。

当センターでは、これまでに妊娠中の化学物質曝露が子どもの健康に与える影響について研究してきました。一方、近年子どもの貧困率の上昇と、それに伴う子どもの発達へ及ぼす社会経済要因の影響が危惧されていることから、社会経済要因の影響についての調査も開始しています。

今回の研究セミナーは、日本における子どもの貧困問題研究の第一人者である阿部 彩氏（国立社会保障・人口問題研究所 社会保障応用分析研究部長）、竹沢純子氏（同企画部 第3室長）及び藤井麻由氏（北海道教育大学函館校講師）の本学訪問を機会に、双方の研究を紹介し、特に社会経済環境が小児発達に与える影響の理解を深めることを目的に開催されました。セミナーには、教育学研究院 松本伊智朗

教授（当センター兼務教員）、川田学准教授（当センター兼務教員）、加藤弘通准教授も参加しました。

第1部「環境と子どもの健康に関する北海道スタディにおける社会経済要因と子どもの健康の研究」では、「北海道スタディ（大規模）調査での今後の計画：特に子どもの発達」（伊藤佐智子特任助教）、「乳幼児の発達に及ぼす社会経済環境の影響；諸外国の研究動向と日本の課題」、「社会経済要因と子どもの発達：北海道スタディの結果から」（いずれも北海道情報大学喜多歳子教授）、「母親の社会経済要因と子どもの生下体重との関連について」（保健科学院博士課程 田村菜穂美氏）のテーマで、発表が行われました。

第2部「子どもの貧困と健康・発達に関する研究」では、「子どもの貧困の動向とその影響」（阿部氏）、「先進諸国における子どものwell-being：日本との比較」（竹沢氏）のテーマで発表が行われました。

質疑応答では、家族構成の観点を入れた問題の理解が必要であることを確認し、「日本における子どもの貧困対策の推進に関する法律は進んでいるか？」「低所得と栄養状態についての報告はあるか？」「住環境と子どもの健康との関連は？」など、今後の研究に参考となる質疑がありました。

総合討論では、子どもの貧困とウェルビーイングを軸に、環境疫学や幼児期から青年期の発達科学の視点を交えた学際的な討論がなされ、実り多き研究セミナーとなりました。

環境健康科学研究教育センターでは、環境と健康に関するさまざまな課題に取り組み、一般市民並びに行政機関が必要とする科学的根拠となる基礎データを提供するために、今後もより一層活発な研究活動を行っていきたいと考えています。

（環境健康科学研究教育センター）



開始の挨拶をする岸 玲子特任教授  
（環境健康科学研究教育センター）



発表する阿部氏（国立社会保障・人口問題研究所）

## 薬学部でメンタルヘルス講習会を実施

薬学部では、6月9日（月）午後2時45分から、薬学部臨床薬学講義室において、主に学部2年次生を対象としたメンタルヘルスケア講習会を開催しました。本講習会は、健康で快適なキャンパスライフを送れるよう、学生がメンタルヘルスケアについての理解と関心を深めることを目的として、保健センターのカウンセラーで臨床心理士である武田弘子氏を講師に迎え行わ

れました。

講習会では、ストレス自己診断テスト（ストレスコーピング）に始まり、ストレスに対する適切な対処方法や、睡眠と心の健康の関係性、アルコールとのつきあい方等を学ぶとともに、最新の統計データを交えた自殺問題やうつ病への対応、ゲートキーパーの役割などについて講演がなされました。当日は79名の参加者があり、武田氏の説

明に熱心に聴き入っていました。

参加者からは、「自己診断により、自分を客観的に見ることができた」「ストレス対処の正しい方法を知ることができた」「クイズ形式で授業に参加することで、より知識が身に付いた」などの感想が多数寄せられました。

（薬学研究院・薬学部）



講演をする武田氏



ストレスコーピングに取り組む学生

## 薬学部で第17回生涯教育特別講座を開催

薬学部では、本学薬学部同窓生を含む医療関係及び関連領域の仕事に従事される方を対象に、医療における諸問題について最新の情報を提供することを目的として生涯教育特別講座を実施しています。

今年度は、6月20日（金）に薬学部臨床薬学講義室において生涯教育特別講座・春季講演会が開催され、薬学部同窓生や薬学部学生、教職員など105名が参加しました。講演には、東北大学病院薬剤部 薬品情報室長の中川直人先生を講師に迎え、「臨床試験の論文を読もう—古くて新しい取り組み—」との演題で、米国での薬剤師教育、主に文献評価学について、また薬学部学生への実務実習における論文読解教育

の取り組みについて講話をいただきました。

米国の薬学部では、2年間の学部教育の後、3年生から6年生までPharm.D.の専門教育が行われますが、その学習科目の中の文献評価学を中心に説明がありました。会場では数多くの質問が寄せられ、活発な議論が行われました。参加者からは、「臨床試験に関する論文を理解できる能力の必要性について理解できた」「米国での薬剤師教育について知る良い機会になりました」「英語や生物統計学を学習する必要性を実感しました」などの感想が多数寄せられました。

（薬学研究院・薬学部）



講演に耳を傾ける参加者

## 工学研究院で工学系大学院FD研修を開催

工学系大学院FD研修を、6月6日（金）・7日（土）の1泊2日の日程で北広島クラッセホテルにおいて開催しました。主催は工学研究院工学系教育研究センター（CEED），共催は工学院教育企画室及び情報科学研究科でした。

本研修は、CEEDが積極的に推進している海外インターンシップを中心とした工学教育について教員同士でより深く考えることを目的に、「海外インターンシップ派遣活性化のための戦略と未来像～海外派遣者数年間100名を達成するために～」というテーマで行われました。

CEEDの産学連携教育プログラム開発部の部員を中心に、名和豊春工学研究院長、野口 徹 初代CEEDセンター長、船水尚行 現CEEDセンター長など総勢26名が参加しました。

1日目は、まず野口初代CEEDセンター長による「CEED黎明期のインターンシップの取組み」との講演で幕を開け、次いで学生側から見た海外インターンシップの効果の検証として2名の学生の発表があり、最後に名和研究院長による「工学教育の目指すもの」との講演で終了しました。その後、夕食を挟み、教員同士で深夜1時まで熱く教育について語り合っていました。

2日目は、まず船水センター長による「CEEDのめざすインターンシップとは」との講演があり、次いで独自の海外インターンシッププログラムを展開する北方圏環境政策工学部門及び環境循環システム部門の教員からプログラムの特色などの説明がありました。

続いて「年間100名の学生を海外インターンシップに派遣するには」、

「より効果的なインターンシップにするためには」、及び「より良い工学教育とは」について、3つのグループに分かれて討論し、最後に各グループがまとめを発表しました。

当初は、工学系の教員に「海外インターンシップを中心とした工学教育」についてどれだけ考えてもらえるか心配もありましたが、質疑応答・討論ともに非常に熱が入っていて活発に行われ、皆非常に熱心に思い入れを持って教育をしていることが真に伝わってきました。

CEEDでは、今回のFD研修を機会に、今後も海外インターンシップなどの活動を通して、工学教育にさらなる貢献をしていきたいと考えています。

（工学院・工学研究院・工学部）



FD研修参加者



名和工学研究院長の講演



熱の入ったグループディスカッション

## 工学系部局で「第1回心のケアに関する講習会」を開催

工学系部局では、6月20日（金）午後5時30分からアカデミックラウンジ3において、工学系部局なんでも相談室カウンセラーの石原一人先生による「第1回心のケアに関する講習会」を開催しました。

講習会では、「学生生活のこころのケア」をテーマに取り上げ、大学生特有のストレスに対応した「ストレスと

こころの健康」「ストレス対処」について講演が行われ、参加した21名の教職員及び学生は熱心に聴き入っていました。

終了後のアンケートには、参加者から「認知行動療法についてもっと知りたくなりました」「講演を聞いたことでとても気が楽になったような感じがした」「とても勉強になった。もう少

し短いスパンでこの講習会を開催してもらえたらいいと思った」等の多くの感想や要望が寄せられました。

工学系部局では、今後教職員向けに「第2回心のケアに関する講習会」を開催する予定です。

（工学院・工学研究院・工学部、情報科学研究科）



講演する石原カウンセラー



受講する教職員・学生

# 附属図書館で2014年 日・EUフレンドシップウィークイベント「Visit Sweden!」を開催

附属図書館は、道内で唯一のEU（欧州連合）情報センターに指定されており、EU公式資料等の所蔵・提供を行っています。また、駐日欧州連合代表部が開催する日本とEUの交流イベント「日・EUフレンドシップウィーク」に毎年参加することで、EUのアウトリーチ活動にも貢献しています。

2014年は、本学の国際交流協定校があるスウェーデンのウメオ市がEUにおける欧州文化首都に指定されたこともあり、メインテーマにスウェーデンを取り上げ、パネル展示や講演会など、様々なイベントを通して、スウェーデンの魅力を紹介しました。

## 企画展示「Visit Sweden!」 6月2日（月）～19日（木）

スウェーデン大使館や道内のスウェーデン関連組織の協力を得て、正面玄関ホールでポスターパネル展示を行いました。スウェーデンの地理や歴史、文化などの基礎情報のほか、本学の国際交流協定校や、国際本部の正木幹生先生による「短期留学プログラム：FSP（ファースト・ステップ・プログラム）スウェーデン留学プログラ

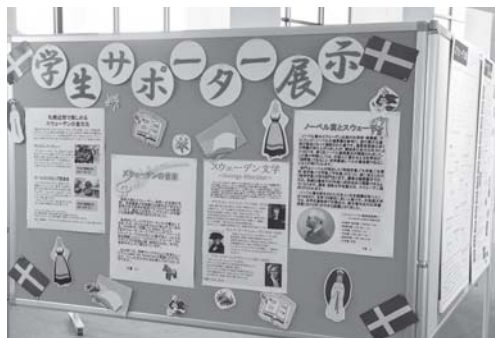
ム」などを紹介しました。展示作業には附属図書館学生サポーターも参加し、スウェーデンにまつわる音楽、文学、ノーベル賞、食文化の4つのテーマをピックアップするポスターで、展示を盛り上げました。

また、展示内容からクイズを出題し、正解者にはEUやスウェーデンのグッズが当たるイベントを開催し好評

を博しました。アンケートには「スウェーデンについてあまり知らなかったが、色々と新しい発見があり、勉強になった」「スウェーデンに行きたくなった」といった声が寄せられ、展示を通して同国に興味を覚えた見学者が多かったことがうかがえました。



ポスターパネル展示の様子



図書館学生サポーターによる展示

## ルイス・ビュールンドさん講演会 6月6日（金）15:00～16:00

附属図書館メディアコートにおいて、スウェーデンの文化を紹介する講演会を開催しました。講師には、当別町にある一般財団法人スウェーデン交流センター勤務のスウェーデン人職員で、スウェーデンの民族楽器ニッケルハルパ演奏家でもある、ルイス・ビュールンドさんをお招きしました。

ルイスさんは色彩豊かなスウェーデンの民族衣装を着て登壇しました。

スウェーデンの社会情勢や自然、文化など幅広い分野にわたって、流暢な日本語でお話していただきました。後半には、ニッケルハルパの生演奏を披露され、聴衆を魅了しました。ニッケルハルパは共鳴弦があることで、ひとつの楽器で演奏しているにも関わらず、とても豊かで奥行きのある音色が出る楽器です。来場された方々には、受付で配ったスウェーデンのチョコレート

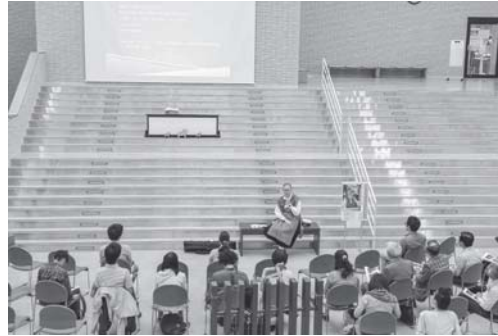
と表情豊かなニッケルハルパの音色を楽しんでいただけたようでした。

当日は学生、一般市民の方を合わせて35名の参加があり、アンケートには「ニッケルハルパの演奏が素晴らしかった」「ルイスさんの日本語が上手で驚いた」といった声が寄せられました。





ルイスさんによる民族楽器  
ニッケルハルバ生演奏の様子



会場の様子

### 北欧留学応援講演会「北欧留学のススメ」 6月9日(月) 18:30~20:00

人文・社会科学総合教育研究棟 W103において、ヘルシンキオフィスのテロ サロマ副所長、牧野杏美さん(経済学部4年生)、中谷朋昭先生(農学研究院)を講師として、北欧留学応援講演会「北欧留学のススメ」を開催しました。

サロマ副所長からは、北欧にある本学の国際交流協定校の紹介、北欧諸国の文化の多様性について、英語でお話がありました。

牧野さんからは、アジア×ヨーロッパの2段階留学の渡航先のひとつとして、スウェーデンのイェーテボリ大学

へ交換留学した経験を踏まえ、留学のきっかけや留学先での生活の様子、帰国後の変化や留学に対する思いなどが語られました。質疑応答の時間には多くの質問が寄せられ、同年代の活躍に大いに刺激を受けた学生が多かったことがうかがえました。

中谷先生は、計5年半にわたってスウェーデンに滞在され、ストックホルム商科大学大学院でPh.D.(経済統計学)を取得されていますが、スウェーデン滞在中の生活の様子や、海外での研究生活について、紹介しました。

当日は学生、高校生を含む一般市民

の方を合わせて48名の参加がありました。アンケートでは「留学を考えており、経験者の生の情報を聞くことができて参考になった」「知っているようで知らない北欧の国々について知る機会となり、とても有益かつ面白かった」「英語の勉強を頑張るモチベーションになった」といった感想が寄せられました。

(附属図書館)



サロマ副所長による講演



牧野さんによる講演



中谷先生による講演

## ■お知らせ

# 「北海道大学の役職員の給与等の水準（平成25年度）」の概要について

独立行政法人等の役員の報酬等及び職員の給与の水準の公表に関する政府決定等及び国立大学法人等の役員の報酬等及び職員の給与の水準の公表方法等について（ガイドライン）に基づき、本学の役員の報酬等、職員の給与水準及び総人件費について、平成25年度分の概要をお知らせします。

### 平成25年度における役員の報酬等の支給状況

	役員10人（法人の長、理事（7人）、監事（2人））
年間報酬等の総額	128,752千円

### 平成25年度における職員の給与水準

	比較対象人員数（注）	平均年齢	平成25年度 年間給与額（平均）
事務・技術職員	905人	40.8歳	5,170千円
教育職員（大学教員）	1,726人	47.9歳	8,088千円
医療職員（病院看護師）	446人	38.1歳	5,069千円

注）「比較対象人員数」は、平成26年4月1日現在、在職している常勤職員（平成25年度途中の採用者及び異動者等を除く。）である。

### 総人件費

区 分	平成25年度	平成24年度	比較増△減	
給与、報酬等支給総額（A）（注1）	千円 27,214,299	千円 27,675,575	千円 △ 461,276	% △ 1.7
退職手当支給額（B）（注1）	千円 2,717,416	千円 2,845,546	千円 △ 128,130	% △ 4.5
非常勤役員等給与（C）（注2）	千円 12,186,658	千円 11,577,683	千円 608,975	% 5.3
福利厚生費（D）（注3）	千円 5,267,860	千円 5,015,882	千円 251,978	% 5.0
最広義人件費（A+B+C+D）	千円 47,386,234	千円 47,114,687	千円 271,547	% 0.6

注1）「給与、報酬等支給総額」及び「退職手当支給額」は、常勤役員及び常勤職員に支払われた報酬（給与）、賞与、その他の手当の総額並びに退職手当の総額である。

注2）「非常勤役員等給与」は、非常勤役員及び非常勤職員等に支払われた給与及び退職手当の総額である。

注3）「福利厚生費」は、全ての役員及び職員（非常勤職員等を含む。）に係る法定福利費と法定外福利費の総額である。

※本概要の詳細については、本学ホームページ（広報・公開、情報公開、法令等に基づく公表事項、その他公表事項）に掲載しています。（<http://www.hokudai.ac.jp/pr/johokokai/pub/other/>）

（総務企画部人事課）

## 被扶養者の要件の確認

「被扶養者の要件の確認」を本年9月中に行います。

については、被扶養者申告書と認定されている被扶養者の認定条件に必要な添付書類を9月上旬に確認が完了するよう早期に手配し、所属している部局等の共済事務担当係へ提出願います。

なお、被扶養者申告書に現在使用中の組合員証等の添付は不要です。

また、「被扶養者の要件の確認」の詳細は各学部等の共済事務担当係にお問い合わせください。

(文部科学省共済組合北海道大学支部)

## 夏季期間における工学系建物の閉鎖の実施について

本年度も、夏季期間における連続休暇取得の奨励及び省エネルギー対策のため、工学系建物の閉鎖を下記のとおり実施しますので、ご協力くださいますようお願いいたします。

### 記

#### 1. 実施期間・体制について

期 間：8月13日（水）～15日（金）

体 制：原則として休日の期間と同様の体制とします。

#### 2. 郵便物・宅配便について

郵便物：局留となりますので、受領及び発送等の取り扱いは、8月18日（月）からとなります。

宅配便：原則として警務員室にて受理・保管となります。

#### 3. 緊急時の体制について

事故時の対応は、原則として緊急連絡体制によります。

詳細については、工学系事務部総務課（TEL.011-706-6115）までお問い合わせください。

(工学研究院, 情報科学研究科, 量子集積エレクトロニクス研究センター, 知識メディア・ラボラトリー,  
次世代都市代謝教育研究センター, トポロジー理工学教育研究センター)

# 博士學位記授与

6月30日（月）に本学大学院研究科等の所定の課程を修了した課程博士は24名、及び本学に学位論文を提出してその審査、試験等に合格した論文博士は3名でした。なお、被授与者の氏名と論文題目等は次のとおりです。

(学務部学務企画課)

## 課程博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（文学）	バン 龐	トゥ 涛	新中国映画、新中国文芸における「満映」の影響 - 朱文順、賈作光、王啓民を中心に 主査：教授 武田 雅哉
博士（法学）	チヨウ 趙	サン 姍	インサイダー取引規制に関する研究-EU・中国・日本の比較を通じて- 主査：教授 小名木 明宏
	ハン 班	テン 天	意思表示における法律の錯誤 主査：教授 池田 清治
博士（医学）	エン 遠	ドウ 藤	The role of Syndecan-4 in the development of autoimmune arthritis (自己免疫性関節炎におけるシンデカン-4の機能解析) 主査：教授 志田 壽利
	クリ 栗	タカ 田	膠原病に伴う間質性肺病変の予後とその予測因子及び治療法に関する研究 主査：教授 西村 正治
	コウ 河	ノ 野	線維芽細胞様滑膜細胞における Ras guanine nucleotide-releasing protein 4 の増殖促進作用に関する研究 主査：教授 佐邊 壽孝
博士（情報科学）	ウブ 生	カタ 方	関係の局所性に基くマルチエージェント制御とその人工感性への応用 主査：准教授 村井 哲也
	ハナ 花	ダ 田	The q-gram Distance as an Approximation of the Edit Distance (編集距離の近似としてのq-gram距離の利用) 主査：教授 工藤 峰一
博士（工学）	チャン 乾	チュン Trung	Realization of 3D image reconstruction from transillumination images of animal body (生体透視像からの3D像再構成の実現) 主査：特任教授 清水 孝一
博士（情報科学）	カヅラ 桂	イ 井	Extracting Semantic Relations Between Concepts Based on Textual and Visual Features of Tagged Images (タグ付き画像のテキスト特徴および画像特徴に基づく概念間の関係抽出に関する研究) 主査：教授 長谷山 美紀
博士（水産科学）	コシ 越	ノ 野	遡河性サケ属魚類 <i>Oncorhynchus</i> spp.による陸域生態系への海由来栄養塩輸送に関する研究 主査：特任教授 桜井 泰憲
博士（環境科学）	カネ 金	コ 子	Characterization of the vanadium-dependent bromoperoxidase from the red alga <i>Laurencia nipponica</i> (紅藻ウラボソ <i>Laurencia nipponica</i> 由来バナジウム依存型プロモベルオキシダーゼの性状解析) 主査：准教授 沖野 龍文
	マツ 松	ダ 田	Overturning circulation that ventilates the intermediate layer of the Sea of Okhotsk and the North Pacific (オホーツク海と北太平洋の中層を通気するオーバーターン循環) 主査：教授 三寺 史夫
	テラ 寺	ウチ 内	Ultrastructural study of extracellular matrix of brown algae (褐藻の細胞外マトリクスにおける微細構造的な研究) 主査：教授 本村 泰三
博士（理学）	ヤマ 山	シタ 下	初期火星大気を想定した主成分凝結対流の二次元数値実験 ～臨界飽和比と凝結核数混合比に対する依存性～ 主査：准教授 石渡 正樹

博士（理学）	そわ づ 康 輝	<i>Porites</i> coral growth in response to land development stress and temperate environmental variables in North-West Pacific. (北西太平洋海域の土地開発ストレスと温帯環境変動に対するハマサンゴ属の成長応答) 主査：教授 鈴木 德行
博士（農学）	イ 伊 坤 朋	Evaluation of Biomass Burning in China Using Satellite Remote Sensing Data (衛星リモートセンシングによる中国におけるバイオマス火災の評価に関する研究) 主査：准教授 谷 宏
	ね 根 もと 本 英 子	耕畜連携によるイアコンサイレージの自給飼料生産体系の構築 主査：教授 柴田 洋一
博士（生命科学）	ス ニル ク マール SUNIL KUMAR ケーアール K R	Synthesis of azobenzene-peptides and their application as a photoresponsive inhibitor for ON/OFF photoswitching of the motility of kinesin-microtubule (アゾベンゼン-ペプチドの合成とキネシン-微小管の運動機能のON/OFF光スイッチのための光応答性阻害剤としての応用) 主査：教授 玉置 信之
	や 八 し ま 島 しんたろう 慎太郎	Friction and Lubrication of Hydrogels with Surface Geometric Patterns (表面ジオメトリックパターンを有するハイドロゲルの摩擦と潤滑) 主査：教授 龔 劍萍
博士（教育学）	こ いずみ みち 子 小 泉 径 子	子どもの虐待と認知に関する研究 - 発達障害的な特徴に着目して - 主査：教授 間宮 正幸
博士（工学）	やぶ い しょう た 藪 井 将 太	位置決め制御系における Adaptive Feedforward Cancellation の理論的検証と系統的設計法に関する研究 主査：教授 梶原 逸朗
	にし ひろ のぶ 西 祐 宜	セメント硬化体の凍害劣化抑制技術に関する研究 主査：教授 名和 豊春
博士（理学）	シ プ ラ Shipra チャウハン CHAUHAN	Fabrication and Characterization of Pt and CeO <sub>x</sub> Nanowire Interface for Improvement of Methanol Electro-oxidation Activity and Oxygen Reduction Reaction Activity on Pt (白金のメタノール酸化活性及び酸素還元反応活性の改善に資する白金-セリアナノワイヤ界面の作製と評価) 主査：教授 村越 敬

論文博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士（環境科学）	てら さき え み 寺 崎 恵 未	亜寒帯汽水湖の生物生産過程における微細藻類（植物プランクトン，付着微細藻，底生微細藻）の役割の評価 主査：教授 門谷 茂
	まえ だ たか し 前 田 高 志	日本産寒海性コンブ科植物 <i>Saccharina japonica</i> の遺伝的多様性の保全に関する研究 主査：准教授 四ツ倉 典滋
博士（工学）	きょう しょう じ 京 将 司	耐高温硫化腐食・耐摩耗溶射材料の開発と実用化に関する研究 主査：教授 黒川 一哉

## レクリエーション

### 平成26年度学内職員バドミントン大会（個人戦）の開催

平成26年度学内職員バドミントン大会（個人戦）を、6月23日（月）から7月2日（水）まで第2体育館において開催しました。大会には総勢92名が参加し熱戦が繰り広げられました。

試合結果は次のとおりです。

（職員バドミントン部）

#### 平成26年度学内職員バドミントン大会（個人戦） 対戦表

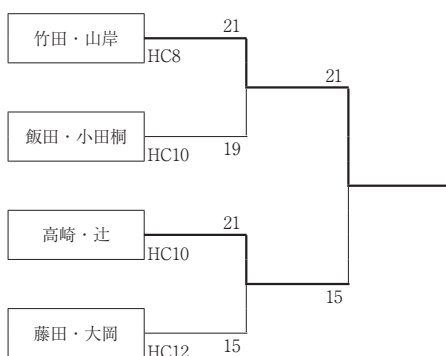
##### ◆ Aクラス

##### Aブロック

				1	2	3	順位
				西村 匡史	高崎 峻介	竹田慎太郎	
NO	氏名	所属	HC	細越もと子	辻 芳朗	山岸 広樹	
1	西村 匡史	獣医学部	10	○	×	×	3
	細越もと子	獣医学部			15-21	18-21	
2	高崎 峻介	医学部	10	○	○	×	2
	辻 芳朗	財務部調達課		21-15		14-21	
3	竹田慎太郎	法学部	8	○	○	○	1
	山岸 広樹	財務部主計課		21-18			

##### Bブロック

					1	2	3	4	順位
					藤田 恭之	飯田 純二	斎藤 之史	近正 竜希	
NO	氏名	所属	HC	大岡 敦子	小田桐 誠	野崎 裕貴	塚越 翼		
1	藤田 恭之	遺伝子病制御研究所	12	○	○	○	×	1	
	大岡 敦子	遺伝子病制御研究所							21-19
2	飯田 純二	工学部	10	×	○	○	○	2	
	小田桐 誠	工学部		19-21					21-19
3	斎藤 之史	研究推進部外部資金戦略課	7	×	×	○	○	3	
	野崎 裕貴	研究推進部外部資金戦略課		不戦敗	19-21				21-13
4	近正 竜希	学務部教育推進課	5	○	×	×	×	4	
	塚越 翼	文学部		21-19	19-21	13-21			



※HC（ハンディキャップ）は、対戦相手ペアに与えるポイントです。  
 ※試合は、対戦相手ペアのHCと相殺されたポイントからスタートします。  
 ※勝敗が同数の場合、HCの大きい順に上位とします。

## ◆Bクラス

横山 隆宏	財務部主計課	18	HC7	21	20	22	16	19	鈴木 裕樹	財務部主計課				
猫塚 和美	財務部主計課								久保 大輔	財務部主計課財務管理室				
藤田 和之	低温科学研究所	11	21						21	21	21	21	栗原 伸輔	法学部
武井 将志	電子科学研究所												對木 文宏	法学部
澤田 浩一	経済学部	不戦勝	21						21	21	21	21	内藤 輝章	北大病院総務課
江戸 将人	北大病院総務課												鈴木 里奈	北大病院総務課
澤 洋文	人獣共通感染症リサーチセンター	不戦勝	21						21	21	21	21	大西なおみ	人獣共通感染症リサーチセンター
伊藤 公人	人獣共通感染症リサーチセンター												小住 英之	人獣共通感染症リサーチセンター
海藤 和俊	財務部主計課	不戦勝	14						14	14	16	16	館山 雅樹	財務部資産運用管理課
越前 圭伍	財務部主計課												福島 卓哉	財務部資産運用管理課
竹下 欣吾	学務部学生支援課													
額額 直也	附属図書館													

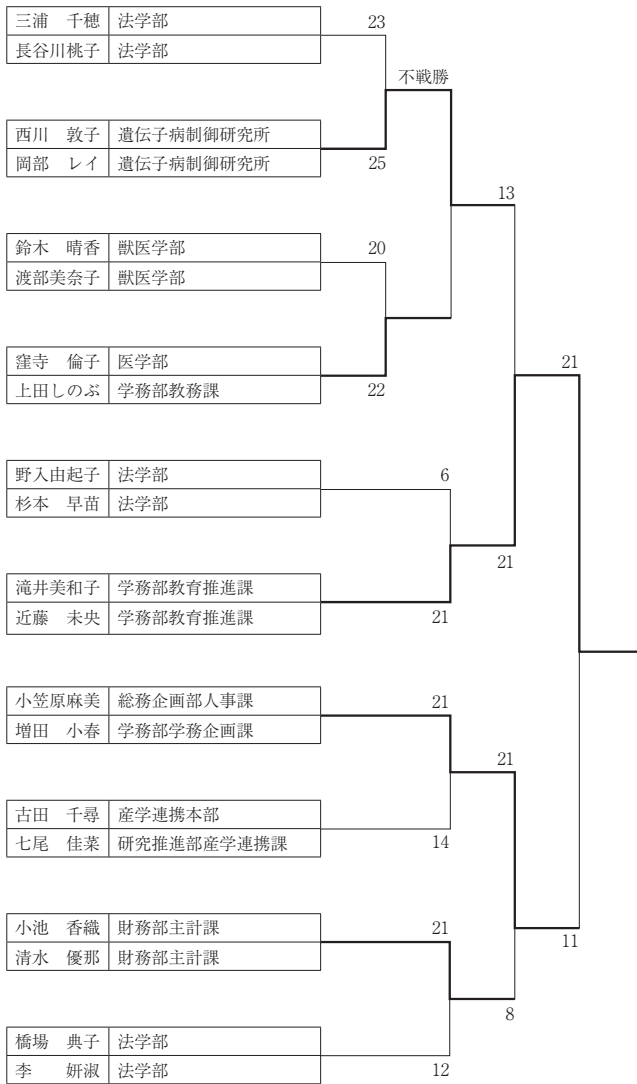
※HC(ハンディキャップ)は、対戦相手ペアに与えるポイントです。

## ◆Cクラス

林 健太郎	学務部学生支援課	21	12	21	15	16	21	9	佐々木徹也	学務部学生支援課				
田島恵理子	学務部学務企画課								荒井 菜々	学務部学生支援課				
清野研一郎	遺伝子病制御研究所	14	21						21	21	21	21	木内 秀和	医学部
大塚 亮	遺伝子病制御研究所												田澤 雅人	医学部
遠藤 真好	財務部外部資金戦略課	12	21						21	21	21	19	加福 千明	学務部入試課
菊地 修平	北方生物圏フィールド科学センター												稲垣 智彦	学務部入試課
近藤 俊治	学務部教育推進課	21	21						21	21	21	21	菅原 裕子	獣医学部
西村 孔佑	総務企画部人事課												尾崎 渉	獣医学部
加藤 隆之	獣医学部	9	21						21	21	21	16	近藤 哲仁	北方生物圏フィールド科学センター
金田 将人	獣医学部												渡邊 良太	北方生物圏フィールド科学センター
木村奈緒美	人獣共通感染症リサーチセンター	21	21						21	21	21	4	小野 貴弘	北大病院経営企画課
大沼 美雪	人獣共通感染症リサーチセンター			左海 賢志	研究推進部産学連携課									
鈴木 敦生	理学部	21	16	23	21	21	21	18	山内 大造	法学部				
佐藤 祥嗣	研究推進部外部資金戦略課								尾崎 晃一	獣医学部				
谷口 雄郎	財務部資産運用管理課	19	15	15	15	21	21	21	今田 裕一	施設部施設企画課				
室井 俊介	財務部調達課								松原 友姫	サステイナブルキャンパス推進本部				
昆 俊亮	遺伝子病制御研究所	21	21	21	21	21	21	15	京谷留美子	獣医学部				
松澤 文彦	遺伝子病制御研究所	HC5							喜多知嘉子	獣医学部				

※HC(ハンディキャップ)は、対戦相手ペアに与えるポイントです。

◆Dクラス



各クラスで優勝したペアの皆さん



## ■ 諸会議の開催状況

---

### 役員会（平成26年6月6日）

- 議案・大学機関別認証評価の受審機関について
- ・大学機関別認証評価の自己評価書作成方針等（実施体制）について
  - ・平成26年度教育関係共同利用拠点の認定申請について
- 協議事項・平成25事業年度に係る業務の実績に関する報告書について
- ・現代日本学プログラム課程に受け入れる外国人留学生に係る日本語研修コースにおける奨学制度について
  - ・国立大学法人北海道大学業務方法書の変更について
  - ・平成27年度概算要求事項について
  - ・平成25年度決算について
  - ・諸規則の一部改正について
- 報告事項・平成25年度構内入構車両の状況について
- ・キャンパス・クリーン・デーの実施結果について
  - ・平成25年度職員定期健康診断受診率について
  - ・平成25年度病院収支の概要について
- 

### 経営協議会（平成26年6月9日）

- 議題・総長選考会議委員の選出について
- ・平成25事業年度に係る業務の実績に関する報告書について
  - ・現代日本学プログラム課程に受け入れる外国人留学生に係る日本語研修コースにおける奨学制度について
  - ・平成27年度概算要求事項について
  - ・平成25年度決算について
  - ・国立大学法人北海道大学業務方法書の変更について
  - ・規程の改正について
- 報告事項・産学・地域連携の活動状況について
- ・「北大フロンティア基金」の寄附受入状況等について
  - ・職員の給与について
- 

### 教育研究評議会（平成26年6月10日）

- 議題・教員の懲戒について
- 

### 役員会（平成26年6月18日）

- 議案・平成27年度概算要求提出について
- 

### 教育研究評議会（平成26年6月18日）

- 議題・平成25事業年度に係る業務の実績に関する報告書について
- ・現代日本学プログラム課程に受け入れる外国人留学生に係る日本語研修コースにおける奨学制度について
  - ・平成27年度概算要求事項について
  - ・諸規則の一部改正について
- 報告事項・大学機関別認証評価の自己評価書作成方針等（実施体制）について
- ・平成26年度スーパーグローバル大学等事業への申請について
- 

### 役員会（平成26年6月23日）

- 議案・平成25事業年度に係る業務の実績に関する報告書について
- ・現代日本学プログラム課程に受け入れる外国人留学生に係る日本語研修コースにおける奨学制度について
  - ・国立大学法人北海道大学業務方法書の変更について
  - ・平成25年度決算について
  - ・諸規則の一部改正について
- 報告事項・平成26年度今夏の節電対策について
- ・役職員の報酬・給与等の水準の公表について
- 

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しております。

## ■ 学内規程

---

### 国立大学法人北海道大学会計規則の一部を改正する規則

(平成26年6月27日海大達第163号)

### 国立大学法人北海道大学契約規程の一部を改正する規程

(平成26年6月27日海大達第164号)

政府調達に関する協定が改正されたことに伴い、所要の改正を行うものです。

---

### 国立大学法人北海道大学における教員の任期に関する規程の一部を改正する規程

(平成26年7月1日海大達第165号)

北海道大学病院の病院長付に採用する教授について、大学の教員等の任期に関する法律第4条第1項第1号の規定に基づき任期を定めることに伴い、所要の改正を行うものです。

---

### 国立大学法人北海道大学国際本部日本語研修コース規程の一部を改正する規程

(平成26年7月1日海大達第166号)

日本語研修コースにおいて、研修生となることができる者として、外国人留学生を対象として特別に編成する学士課程教育プログラムへの入学に当たり、予備課程である日本語研修コースを受講することとされた外国人留学生を追加することに伴い、所要の改正を行うものです。

---

### 北海道大学における聴講生等の検定料等の額に関する規程の一部を改正する規程

(平成26年7月1日海大達第167号)

外国人留学生を対象として特別に編成する学士課程教育プログラムの予備課程である日本語研修コースの入学者について、日本語研修コースの入学料及び授業料は徴収しないこととするに伴い、所要の改正を行うものです。

---

## 表敬訪問

### 国内

年月日	来訪者
26.6.12	独立行政法人国際協力機構 理事長 田中 明彦 氏
26.6.26	JR北海道ホテルズ株式会社 代表取締役社長 石見 誠嗣 氏
26.7.2	日本電子株式会社 代表取締役社長 栗原 権右衛門 氏 株式会社ニコン 代表取締役会長 木村 眞琴 氏
26.7.3	株式会社朝日新聞社北海道支社 支社長 森山 二郎 氏
26.7.3	独立行政法人科学技術振興機構 理事長 中村 道治 氏



独立行政法人国際協力機構 理事長  
田中 明彦 氏



JR北海道ホテルズ株式会社  
代表取締役社長 石見 誠嗣 氏 (左から2人目)



日本電子株式会社 代表取締役社長  
栗原 権右衛門 氏 (中央右)  
株式会社ニコン 代表取締役会長  
木村 眞琴 氏 (左から2人目)



株式会社朝日新聞社北海道支社 支社長  
森山 二郎 氏



独立行政法人科学技術振興機構 理事長  
中村 道治 氏

(国際本部国際連携課, 総務企画部広報課)

### 海外

年月日	来訪者	来訪目的
26.6.24	太平洋国立大学 (ロシア) Sergey Ivanchenko 学長	両大学の交流に関する懇談
26.7.1	パテイン大学 (ミャンマー) Nyunt Phay 学長	両大学の交流に関する懇談



太平洋国立大学 (ロシア)  
Sergey Ivanchenko 学長 (中央)



パテイン大学 (ミャンマー)  
Nyunt Phay 学長 (右から2人目)

(国際本部国際連携課)

# ■人事

## 平成26年6月4日付発令

新職名(発令事項)	氏名	旧職名(現職名)
【教授】 (転出) 文部科学省研究振興局基礎研究振興課長	行松 泰弘	大学院工学研究院教授

## 平成26年6月30日付発令

新職名(発令事項)	氏名	旧職名(現職名)
【准教授】 (任期満了)	仁木 剛史	大学院農学研究院准教授
【助教】 (任期満了) (辞職)	金古 裕之 出山 論司 日下部 豊寿	北海道大学病院助教 大学院薬学研究院助教 北海道大学病院助教
【係長】 (出向復帰) 総務企画部人事課付係長 (辞職)	福田 仁士 福田 仁士	国立高等専門学校機構函館工業高等専門学校学生課寮務係長 総務企画部人事課付係長
【技術職員等】 (辞職)	澤田 真衣 石坂 美紀子 大西 詩織 近藤 彩未 佐伯 麻衣 高橋 亜由美 西 加奈 橋田 めぐみ 森谷 純	北海道大学病院薬剤部薬剤師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院診療支援部主任臨床検査技師

## 平成26年7月1日付発令

新職名(発令事項)	氏名	旧職名(現職名)
【教授】 量子集積エレクトロニクス研究センター教授	葛西 誠也	大学院情報科学研究科准教授
【准教授】 北海道大学病院准教授 人獣共通感染症リサーチセンター准教授, 国際連携研究教育局准教授 人獣共通感染症リサーチセンター准教授, 国際連携研究教育局准教授 人獣共通感染症リサーチセンター准教授, 国際連携研究教育局准教授 (転出) 東京大学大学院医学系研究科准教授	石森 直樹 五十嵐 学 中島 千絵 山岸 潤也 大庭 幸治	大学院医学研究科助教 採用 採用 採用 北海道大学病院講師
【講師】 大学院医学研究科講師 大学院理学研究院講師 人獣共通感染症リサーチセンター講師	若狭 哲 井原 慶彦 大場 靖子	大学院医学研究科助教 大学院理学研究院助教 採用

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
(転出) 一橋大学講師	奇 春 花	国際本部学術専門職
<b>【助教】</b> 大学院医学研究科助教 大学院医学研究科助教 大学院薬学研究院助教 大学院保健科学研究院助教 北海道大学病院助教	川久保 和 道 松 島 将 士 鳴 海 克 哉 水 野 芳 子 斉 藤 文 男	採用 採用 北海道大学病院薬剤部薬剤師 採用 採用
<b>【補佐】</b> 財務部経理課課長補佐 財務部資産運用管理課課長補佐 施設部施設企画課課長補佐 医学系事務部会計課課長補佐 理学・生命科学事務部事務課課長補佐 工学系事務部経理課課長補佐	中 田 雄 二 馬 場 勝 浩 佐 藤 哲 生 八 卷 雅 彦 岡 野 賢 岩 松 正 一	理学・生命科学事務部事務課課長補佐 財務部主計課専門員 財務部主計課係長 工学系事務部経理課課長補佐 財務部経理課係長 施設部施設企画課課長補佐
<b>【専門員】</b> 財務部主計課専門員	鳥 谷 知 克	財務部資産運用管理課係長
<b>【係長】</b> 監査室係長 財務部主計課係長 財務部主計課財務管理室係長 財務部経理課係長 財務部資産運用管理課係長 研究推進部外部資金戦略課係長 附属図書館管理課係長 経済学研究科・経済学部係長 医学系事務部会計課係長 歯学研究科・歯学部係長 獣医学研究科・獣医学部係長 理学・生命科学事務部事務課係長 教育学事務部係長 北海道大学病院医事課係長 低温科学研究所係長 北方生物圏フィールド科学センター係長 (出向復帰) 施設部施設企画課付係長	佐々木 結 駒 井 孝 博 大 桃 琢 磨 小田切 和 博 猫 塚 和 美 中 川 雅 貴 福 地 由 香 高 橋 宏 市 亀 山 典 生 安 宅 優 子 金 森 淳 二 五十嵐 由 美 佐々木 晃 裕 井 上 猛 高 瀬 吉 晴 藤 沢 一 教 高 橋 尚 志	研究推進部外部資金戦略課係長 財務部資産運用管理課係長 歯学研究科・歯学部係長 監査室係長 財務部主計課係長 医学系事務部会計課係長 財務部調達課主任 理学・生命科学事務部事務課係長 獣医学研究科・獣医学部係長 低温科学研究所係長 財務部主計課財務管理室係長 法学研究科・法学部主任 経済学研究科・経済学部係長 北方生物圏フィールド科学センター係長 附属図書館管理課係長 教育学事務部係長 苫小牧工業高等専門学校総務課施設管理係長
<b>【主任】</b> 総務企画部人事課主任 研究推進部産学連携課主任 法学研究科・法学部主任 法学研究科・法学部主任 農学事務部主任	工 藤 淳 子 阿 部 正 孝 上 平 聖 子 木 村 勉 室 谷 愛	工学系事務部情報科学研究科事務課主任 北海道大学病院経営企画課主任 獣医学研究科・獣医学部主任 北海道大学病院経営企画課主任 法学研究科・法学部主任
<b>【係員】</b> 総務企画部広報課 総務企画部人事課厚生労務室 財務部主計課 財務部調達課 財務部調達課 研究推進部研究振興企画課 獣医学研究科・獣医学部	武 田 朋 子 石 田 千 織 山 下 俊 輔 高 村 晃 平 藤 田 こゆき 齊 藤 大 幹 川 合 宏 典	総務企画部人事課厚生労務室 総務企画部人事課 財務部資産運用管理課 函館キャンパス事務部 医学系事務部会計課 北海道大学病院総務課 北海道大学病院経営企画課

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
函館キャンパス事務部 理学・生命科学事務部事務課 北海道大学病院経営企画課 北海道大学病院経営企画課 北海道大学病院経営企画課 北海道大学病院管理課 低温科学研究所 (転出) 文部科学省大臣官房人事課	山 内 隆 嗣 大久保 雅 史 芦 田 麻里亜 蒔 田 均 志 室 井 俊 介 細 木 杏 奈 佐 藤 亜由美  功 刀 岳	理学・生命科学事務部事務課 北海道大学病院管理課 財務部調達課 財務部主計課 財務部調達課 低温科学研究所 研究推進部研究振興企画課  総務企画部人事課
<b>【技術職員等】</b> 水産学部附属練習船おしよろ丸操舵手 水産学部附属練習船おしよろ丸操舵手 水産学部附属練習船おしよろ丸司厨手 北海道大学病院診療支援部作業療法士	小 熊 健 治 金 澤 貴 洋 玉 川 宏 稲 垣 侑 士	水産学部附属練習船おしよろ丸甲板員 水産学部附属練習船おしよろ丸甲板員 水産学部附属練習船おしよろ丸司厨員 採用

### 新任教授紹介

平成26年7月1日付



量子集積エレクトロニクス  
研究センター教授に

かさい せいや 氏  
**葛西 誠也 氏**

**生年月日**

昭和44年4月23日

**最終学歴**

北海道大学大学院工学研究科博士後期課程修了(平成9年3月)  
博士(工学)(北海道大学)

**専門分野**

ナノ電子デバイス, ゆらぎと機能

## 編集メモ

---

●青空に緑が映え、日差しが眩しく感じられる季節となりました。大野池では蓮の花が見頃を迎えています。

●卒業して初めて本学を訪れた同窓生の方から、在学時とのあまりの違いに驚いたとのお声をいただきました。先月には、鈴木 章名誉教授の功績を継承し、後進の育成を目的としたフロンティア応用科学研究棟が落成するなど、年々キャンパスも変化しています。



ポプラ並木



2014.6.28 函館本線 朝里～銭函（小樽市）

## 北の鉄道風景 16 711系電車

気動車やディーゼル機関車のみ走行可能な鉄道路線は非電化区間と呼ばれる。電力を車両に供給するための架線と、それを支持するための架線柱を非電化区間に設置することで、電車や電気機関車の運用を可能にすることを電化という。北海道では、昭和44年に函館本線の小樽～旭川間で竣工した交流電化を嚆矢として、室蘭本線の室蘭～苫小牧間や千歳線の全区間など、主に道央の鉄道路線に対して電化

がなされた。写真の711系電車は、函館本線の電化以来、半世紀の長きにわたり活躍してきた車両である。近年、新型車両の導入が進んだ結果、今年度末までに711系電車の全てが引退することになった。古き良き時代の車両がまた一つ消えゆくのは寂しい限りだ。

情報科学研究科 准教授 山本 学

北大時報 ⑦ No.724 平成26年7月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。http://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html